

文部科学省

高等学校における次世代ニーズを踏まえた指導の充実事業

平成30年度研究成果報告

徳島県教育委員会

研究拠点校	徳島県立徳島中央高等学校
協力校	徳島県立徳島科学技術高等学校
協力校	徳島県立富岡東高等学校
協力校	徳島県立鳴門高等学校
協力校	徳島県立名西高等学校
協力校	徳島県立池田高等学校

研究成果報告書目次

【1】 事業計画

- 1) 研究指定期間3年間の調査研究のねらい 1
- 2) 研究指定期間3年間の調査研究の概要 1
- 3) 研究指定期間3年間の調査研究の目標 2
- 4) 調査研究の具体的内容等 2
- 5) 調査研究の効果測定について 4

【2】 平成30年度各学校における調査研究の概要

- 1) 就労指導 5
- 2) ソーシャルスキル向上指導 13
- 3) 学力向上指導 55
- 4) 特別な支援を必要とする生徒への指導 64

【3】 1年間の成果 68

【1】事業計画

1) 研究指定期間3年間の調査研究のねらい

平成27年度から平成29年度まで指定を受けた「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」において、支援・相談体制の構築、特別な支援において相談支援員・関係機関と連携した就労移行支援、それに伴う生徒の学習意欲向上・自己有用感の上昇を調査研究課題として取組を行い、一定の成果を得ることができた。しかしながら、本県独自調査「生徒の意識等に関わる調査」によれば、全日制課程と定時制課程の生徒数の割合(%)を比較すると、「自分にはよいところがある」という問いでは、16ポイント程度低く、「将来の夢や目標を持っている」という問いでは、10ポイント程度低い。全日制課程生徒と比較すると、まだ開きがあることから、「自分にはよいところがある」等の自己肯定・有用感を持つことは、「将来の夢や目標」へと繋がり、社会性の育成の第一歩となり得る。そこで、前事業の多様な生徒に対応できる支援・相談体制を充実させ、その上で生徒の学習ニーズに応じた学力やソーシャルスキル向上の指導方法等を確立し、生徒の自己肯定・有用感を上昇させることで、目標を持ち自ら将来を切り拓いていこうとする力を持った生徒の育成につなげたい。また、前事業において多くの指導方法が実施されたが、それらの汎用化の可能性についての検証は、まだ不十分である。その検証を引き続き行い、汎用化可能な教科・取組の評価については、パフォーマンス評価、ルーブリック評価等を研究し評価規準を作成することで、指導方法を確立し、定時制・通信制課程を有する他の全ての高等学校で活用可能にする。また、事業の成果を定時制・通信制課程の高等学校だけでなく、全日制課程の高等学校や特別支援学校へと、拡大普及に取り組む。

2) 研究指定期間3年間の調査研究の概要

徳島県内の定時制・通信制課程で学ぶ全ての生徒を対象とする。徳島中央高等学校を研究拠点校、県内の定時制・通信制課程を有する他の全ての高等学校を研究協力校に指定し、前事業の多様な生徒に対応できる支援・相談体制を活用し、取組内容を充実・深化させ、指導方法を確立する。前事業での取組成果を生かし、有効性・有用性の整理、客観的な検証を更に進め、定時制・通信制課程生徒の抱える共通の課題及び対応策として汎用化の可能性について検討し、汎用化可能な教科等の評価についてはパフォーマンス評価、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価等の研究・検証を行い、これまで成果のあった取組、教科の指導方法を確立する。また、各学校での支援・相談体制の充実・深化策の検証を行う。

3) 研究指定期間3年間の調査研究の目標

調査研究の有効性有用性を整理，客観的に検証し，定時制通信制課程生徒の抱える共通の課題及び対応策として汎用化の可能性について検討する。数値化して評価することが適切でないソーシャルスキルトレーニング等ではパフォーマンス評価，ルーブリック評価等の手法を用いながら，各学校での支援・相談体制の充実・深化策の検証を行う。平成30年度の目標を次のとおり設定する。

- (1) 就労・ソーシャルスキル向上・学力向上について指導方法の確立
(各指導を受けた生徒対象)
アンケート「役に立った」割合(研究当初から5ポイント上昇)
- (2) 本県独自調査「生徒の意識等に関わる調査」
(定時制課程1年141名，2年生149名対象)
「自分にはよいところがある」割合60%(H30は55%)
「将来の夢や目標を持っている」割合65%(H30は60%)

4) 調査研究の具体的内容等

前事業「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」での取組成果を生かし，本事業では，次の3項目を実施する。

- (1) 就労・ソーシャルスキル向上・学力向上等の指導方法の確立
それぞれの学校の特性を生かし，それぞれの生徒の状況に応じた就労，ソーシャルスキル向上，学力向上の指導方法，また，その評価について整理・検証する。
 - a 徳島中央高等学校定時制課程夜間部では，学校設定教科「職業」を開設し，生徒全員に対して就業体験を課し，インターンシップや就労を実務代替・学校外の学修の単位として認定する制度を導入しており，その評価に際して，更にパフォーマンス評価，ルーブリック評価，ポートフォリオ評価等の研究・検証を行う。
 - b 徳島中央高等学校定時制課程昼間部では，総合的な学習の時間，国語科等において「とくしま中央一座」，「絵本の読み聞かせ」等の活動により，自己の役割の理解や前向きに考える力といった自己理解・自己管理能力育成を図る。活動のねらいを明確にし，前事業での蓄積データから生徒の変容を分析・検証し，活動内容を深めていく。

- c 徳島中央高等学校通信制課程では、「学び直し」教材のデジタルコンテンツ化に取り組み、多様な学習ニーズに対応できる指導方法について研究を検討する。
- d 各研究協力校では、地域や人と関わる活動、職場見学会や外部講師による講演等を実施し、就労に対する意欲向上や離職率の低下及びソーシャルスキル向上を目的とした指導方法について検証する。特に、離職率が高いことについては、知事部局とも連携し、離職率を下げる対策を研究する。
- e 徳島科学技術高等学校、富岡東高等学校では、各種検定の資格取得に向けた効果的な書籍や出前講座の活用について研究・検証する。

(2) 特別な支援を必要とする生徒への指導方法の確立

a 支援相談員の活用

調査研究校では、特に発達障がい等何らかの支援を必要とする生徒に対し、支援相談員の助言を受け、個別の指導計画作成のほか、教科学習、総合的な学習の時間、特別活動、放課後支援等を総合的に組み合わせた社会への移行支援を目的とした指導方法は一応の確立をみた。近隣地域にある協力校(徳島科学技術高等学校定時制、名西高等学校定時制)への、支援相談員派遣の結果も踏まえ、3校が連携して指導方法について更に検討する。

b ケース会議の開催

事案に応じて県立特別支援学校の巡回相談員、就労移行支援事業所ワークステーション未来の専門員等も参加し、生徒の実態に即した指導方法の検討を実施する。

(3) 支援・相談体制の充実

a 定時制・通信制課程支援・相談検討会議

キャリア教育専門家(鳴門教育大学大学院教授・准教授)、関係機関の職員からなる委員と管理機関担当(定通教育担当、キャリア教育担当等)、研究指定校教職員等からなる検討会議を開催。委員の指導を受け、本事業の計画検討及び実施評価を行う。

b 定時制・通信制連絡会

県内の定時制通信制課程の教頭による連絡会で情報交換。個別の検証が必要な事案については、支援相談運営委員会と連携を図る。必要に応じてテレビ会議システムを活用する。

5) 調査研究の効果測定について

就労支援の指導方法については、インターンシップ参加者の割合、卒業時の就職率等を把握し、その推移により効果の分析を行う。また、就職先での定着率・離職率についても、知事部局と連携し把握・分析を行う。ソーシャルスキル向上・学力向上の指導方法については、各指導を受けた生徒の自己評価に加え、各教科等の評価（パフォーマンス評価、ルーブリック評価等）により、生徒の学習意欲の伸長を把握し、その推移により効果の分析を行う。特別な支援を必要とする生徒への指導方法についても、各指導を受けた生徒の自己評価、アンケートにより、効果の分析を行う。支援・相談体制については、相談生徒人数により実績把握を行う。自己肯定・有用感については、就労・ソーシャルスキル向上・学力向上の指導による複合的效果が考えられるため、各支援を受けた生徒の自己評価に加え、本県独自調査「生徒の意識等に関する調査」（毎年7～8月実施 2月結果公表）により把握、分析・検証を行う。

多様な学習ニーズの応えるための指導方法の確立

徳島県教育委員会

現状と課題

- 人口減少の中で全日制と同じく生徒数は減少しているが、特別な支援を必要とする生徒の割合は増加している。 ● 企業からの求人数は増えつつあるが、全日制と比較すると求人が少ない。
- 「生徒の意識等に関する調査」によれば、全日制と定時制の生徒数の割合を比較すると、「自分にはよいところがある」という問いでは、16%程度低く、「将来の夢や目標を持っている」という問いでは、10%程度低い。
- 徳島中央高校(定時制(夜・昼)、通信制)ではこれまでも研究指定を受ける等、多様な教育実践に取り組んでいる。
- 周辺の定時制課程で、地元と連携した取組等を行っている。(夜間避難訓練 地元書道家の作品制作支援 など)
- 研究指定校を除くと小規模の定時制課程夜間部5校となり、教員数が少ない。

仮説

多様な生徒に対応できる支援・相談体制を充実させ、その上で生徒の学習ニーズに応じた学力やソーシャルスキル向上の指導方法等を確立し、生徒の自己肯定・有用感を向上させることで、目標を持ち自ら将来を切り拓いていこうとする力を持った生徒の育成につながる。

対応策

支援・相談体制の充実

就労

ソーシャルスキル向上

学力向上

特別な支援を必要とする生徒への指導

指導方法の確立

- 支援・相談会議の開催 ・学識経験者、専門家による事業実施への助言・事業に対する検証・評価
- ワーキンググループ ・必要に応じて、指導方法や評価について、討議
- 成果の普及 ・定時制通信制高校を結ぶテレビ会議システムを活用し、成果と課題を報告。研究協議を実施
・成果報告会を実施し、全日制課程の高等学校や特別支援学校へも拡大普及
- 就労に対する意欲向上や離職率の低下を目的とした指導方法の確立
 - バイク習得 職業等 ものづくり
 - 実習体験 ビジスマナー
 ・職場見学会や外部講師による講演等を実施し、他の課題への汎用化の可能性について検討
・知事部局との連携し、離職率を下げる対策(指導方法)について研究
- 学校設定教科「職業」 ・評価に際して、パフォーマンス評価、ルーブリック評価等の研究・検証
- ソーシャルスキル向上の指導方法の確立
 - ・「とくしま中央一産」絵本の読み聞かせ等の活動の効果の研究・検証
 - ・パフォーマンス評価、ルーブリック評価による検証
- 「学び直し」教材のデジタルコンテンツ化
 - ・多様な学習ニーズに対応できる指導方法について研究を検討
- 大学との連携をもとにした支援策の拡充
 - ・大学生・大学院生による学習支援、放課後支援を行い、指導方法の在り方について考える
- 各種検定の資格取得にむけた効果的な書籍や出前講座の活用
- 相談支援員の活用
 - ・拠点校に配置 ・協力校に巡回 ・活用校3校が連携して指導方法について検討する
- ケース会議の開催
 - ・事業に応じて外部支援機関と連携 ・教職員の共通認識

定時制・通信制高校生徒の自己肯定・有用感向上

夢や目標を持ち、自ら将来を切り拓いていく生徒

【2】平成30年度各学校における調査研究の概要

1) 就労支援

① 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

○「職業基礎 A」から「職業基礎 B」への発展的な学習

1 目的・ねらい

職業に従事することを目標とし、各職種に必要とされる基礎的、基本的な知識と技術について理解させ、正しい勤労観、職業観を育成する。また、すでに就業している生徒も、他職種の体験を通して、より深い自己理解や将来設計について考えさせる。さらに、企業と学校との連携を強化し、生徒の就業の実現をはかる。

2 内容

「職業基礎 B」は、「職業基礎 A」で学習した内容の定着を図るため、実践的な学習を中心とする。実習的な学習や、プレゼンテーション、外部講師を招いての全体学習、就業体験を通して、職場に必要なスキルやマナーを身につけさせる。また、「職業基礎 B」の実践から「職業基礎 A」の内容を見直し、修正を加える。

3 取組

(1) 就業体験に関する内容
企業研究・企業訪問の心得・勤務中の
態度・就業体験・お礼状作成・体験発表

(2) 職場で求められるスキルに関する内容
電卓実習・ビジネス文書作成の基礎
(ワード・エクセル・パワーポイント)

(3) 就職活動に関する内容
進路ノートの活用 (自己分析・高校生活
の振り返り・履歴書作成・面接練習)

(4) 外部講師招聘
中小企業家同友会に依頼し5人の社長
(小売業、サービス業、食品製造業、
建築業、土木建設業)とディスカッション。

社長になるまでの苦労や心がけたこと。それぞれの企業が求める社員像、仕事をするということなど講演だけでなく、班に分かれディスカッションした。生徒の中にはある社長の苦労話を聞き、その人の人間性にも惹かれ憧れの眼差しで見ている。また、社長さんの会社では是非働きたいと考える者もおり刺激的な2時間だった。





4 成果

「職業基礎A」で学習した内容を実践する場面がたくさんあり、既習内容の定着を図ることができた。「職業基礎B」の中で実施している実習体験活動では、オープンキャンパス、企業見学、就業体験に88%の生徒が参加した。こうした体験を通して、就職や進学に対する心構えを養うことができ、その実現に向けて前向きな姿勢が身についてきた。また、自分の適性にあった進路選択の大切さを実感し、将来について真剣に模索する生徒も現れている。

昨年度まで昼間仕事（アルバイト等を含む）をしている者が60%程度であったが取組による意識付けが功を奏し、本年度は80%を越えている。

5 今後の課題

本校と企業との連携がまだまだ十分とは言えない。全教員での企業開拓や企業訪問など、学校全体で取り組むことが必要である。また、生徒が多様化する中で、それぞれに合った就業体験先を確保することが難しい。今後は、中小企業家同友会との連携を更に深め、就職活動につなげていきたい。

② 徳島科学技術高等学校定時制課程

○資格取得対策のための参考図書の活用について

1 目的・ねらい

本校は、本県唯一の定時制課程工業科であり、ものづくりの基礎を学ぶ専門高校であるが、就労意識が希薄である生徒も少なくない。そこで、各種資格・検定試験参考図書を購入し、これを用いた補習で資格の取得をさせ、就労意欲を喚起させる。

2 内容

資格・検定・基礎学力向上に関する次の17冊の図書を購入した。

乙種危険物取扱者（2種類）、情報技術検定、日本語ワープロ検定（2種類）、情報処理技能試験表計算（2種類）、第2種電気工事士、2級建築施工管理技士、計算技術検定（2種類）、基礎製図検定、就職面接試験（2種類）、自衛官採用試験、ビジネスマナー。

3 取組

購入した図書を用いて、放課後補習・休日補習を行い、資格取得の学習を行った。

4 成果

各種危険物取扱者に延べ16名、日本語ワープロ検定に22名、情報処理技能試験表計算に17名、第2種電気工事士に1名、計算技術検定に25名、基礎製図検定に7名が合格できた。資格取得がスキルアップに繋がることを実感でき、就労意欲向上に役立った。

5 今後の課題

受験者数がさらに増加するよう、生徒への補習出席の呼びかけを積極的に展開する。今年度はソーシャルスキルトレーニングを実施する機会がなかったが、今後は機会を設けていきたい。

○職場見学会等の実施について

1 目的・ねらい

ものづくりに関係した職場見学をすることで、将来の職業についての展望を抱かせる。また、就職希望者に対して、面談等を通して本人の希望や職業の適性を考慮した上で、企業の求人開拓を行う。その後、求人可能となった企業に職場見学会開催を依頼する。生徒が、会社の雰囲気や仕事内容を十分理解できた上で受験意思を固めることで、就労に向けた意欲向上と離職率の低下を図る。

2 内容

生徒・保護者との面談を通して、希望する業務内容や就労条件等に合致した会社へ職場見学会を依頼し、可能な限り採用試験受験・内定に結びつけられるようにする。

3 取組

- (1) 省力機械・自動組立機械の設計・製作をされているA精工(株)に職場見学会を実施していただき、本校の教員1名と機械工作部員3名が参加した。製作現場や工作機械での部品加工を見学させていただいたことで、工場で働くということを実感でき、勤労意欲を増すことができた。
- (2) 機械コース3年次生の1名が、旅客運送事業のB社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年9月20日に受験し、平成30年10月2日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。
- (3) 電気コース3年次生の1名が、電気工事業のC社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年10月17日に受験し、平成30年10月19日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。

- (4) 機械コース3年次生の1名が、車両整備業のD社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年11月16日に受験し、平成30年11月20日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。
- (5) 機械コース3年次生の1名が、製造業E社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年11月20日に受験し、平成30年11月30日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。
- (6) 電気コース4年次生の1名が、自動車用品販売店F社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年12月6日に受験し、平成30年12月6日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。
- (7) 建築コース4年次生の1名が、サービス業G社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年12月7日に受験し、平成30年12月10日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。
- (8) 電気コース4年次生の1名が、鉄工業H社に就職を希望し、職場見学会を実施していただいた。そして平成30年12月17日に受験し、平成30年12月17日に正社員としての採用内定通知を受け取ることができた。

4 成果

今まで、本校の卒業生が就職したことがなかった7社について、職場見学会を実施することができ、卒業後の進路獲得に役立った。また、加えて進路先の新規開拓として、3社の企業訪問を実施した。

5 今後の課題

今回、生徒が入社する7社について、入社後も引き続いて企業訪問等によって連絡をとり、卒業生の入社後の相談も行っていく。そして、会社と学校でさらなる良い関係を構築し、引き続き求人を獲得できるよう体制を整える必要がある。

③ 富岡東高等学校定時制課程

○購入図書について

1 目的・ねらい

本校定時制には、昼間に仕事やアルバイトをして、実社会で働いている者が多い。その生徒たちも、働いていない生徒たちも、就職活動をする際に、礼儀作法やマナー等をあらためて見つめ直し、自分の中で再整理し、自分のものとする機会となるよう、就職活動に係る参考図書を購入し、就職希望の生徒に活用する。

2 内容

次の図書を購入した。

高校生の就職 2018 書き込み式面接試験合格シート (一ツ橋書店)

3 取組

本図書は、書き込むことで、自分の考えが広まったり深まったりするよう設定されている。その書き込み式の部分を印刷し、プリントにすることで、生徒の就職準備がしやすいものとなった。

4 成果

就職活動を行う最上級の4年生に活用した。

さらに、職員室内の生徒の目に入りやすいところに本図書を配置したところ、4年生だけでなく、職員室に別の用事で訪れた下級生たちも本図書を手にする場面が見られた。その生徒たちが就職活動に取り組むときに何をすべきかの参考になっていた。

5 今後の課題

今回の購入図書を利用して、就職活動時の直接的かつ具体的な対策に当たることができた。しなしながら、生徒ひとり一人の基本的資質に関して、学力、自己肯定感・自己有用感、ソーシャルスキル等を総合的に高めるよう、日々の教育活動がより充実するよう教員は今以上に取り組まなければならない。

④ 名西高等学校定時制課程

○職業体験講座について

1 目的・ねらい

本校の生徒は、アルバイトに従事している生徒が約6割いるが、フルタイムで働いている生徒はいない。就労に対しても積極性に欠ける生徒が少なからずいる。さまざまな職業を体験することで就労意識を向上させる。

2 内容

本校の生徒が将来関わりそうなさまざまな職種のプロを招いてその職業の一端を疑似体験し、職業観を育成するとともに卒業後の進路を考える一助とする。

3 取組

1) うどん実習

日時 平成30年11月6日(火)

講師 吉野川高校教員 3名

4～5名のグループに分かれ、うどん玉を麺棒でのばし、うどん打ち、湯がき、出汁を取ってスープを作る実習をおこなう。盛り付け方や出汁の取り方、作るまでのタイムテーブル、衛生指導、諸経費の計算など、飲食店舗経営の基本を学ぶ。

2) 社交飲食とクリーニング実習 (予定)

日時 平成31年2月6日 (水)

講師 徳島県生活衛生営業指導センター職員

2～3名のグループに分かれ、社交飲食とクリーニングの実習をおこなう。社交飲食ではカクテルづくりやカットフルーツの盛り付け方、クリーニングではアイロンのあて方などを学ぶ。

4 成果

家庭では使い慣れていない、プロが使う調理器具を使い、調理の楽しさや面白さ、また、安全で安心な商品づくりの難しさを体験したり、プロのテクニックを間近で見ることによってその仕事をイメージすることができた。

5 今後の課題

一日で体験できる内容には限りがあり、仕事の全容に触れることはできないが、次年度以降も生徒たちが将来従事するような職種を体験できるよう企画立案していく。

○就職に向けた図書購入について

1 目的・ねらい

従来、本校では卒業後の進路にアルバイトの継続やパートタイム勤務が多く見られた。しかし、近年の求人数の増加に伴い、本校も学校斡旋で就職する生徒が増えつつある。そのため、就職試験に向けての準備をおこなう。

2 内容

一般的な就職試験に関する図書を購入し、生徒の就職希望先に合わせて個別指導で活用する。

3 取組

就職希望の生徒に対して、日々の課題、週末の課題などで就職に関する図書を活用して問題演習をおこなう。就職試験に向けた意識や学力の向上を目指す。

4 成果

本年度、学校斡旋の就職を希望する生徒は2名（卒業生8名）で県内企業と県外企業に就職した。

5 今後の課題

生徒は教養問題の分野に困難を感じている様子であった。3年間または4年間を通じて教養を身に付ける必要があり、早い段階での意識付けをおこなうことで、就職試験に対する準備につなげていく。

⑤ 池田高等学校定時制課程

○職業体験・職場見学・ビジネスマナー講座等について

1 目的・ねらい

社会人・職業人として求められる資質・能力，世間の動向や労働者の権利等の理解を深め，実際の仕事や職場の雰囲気に触れることにより，主体的な進路選択に繋げる。

2 内容

事業所訪問による職業体験や職場見学，アドバイザーによるビジネスマナー指導等を通して，社会人・職業人に求められる知識や心構え，行動規範等について学ぶ。

3 取り組み

◇職業体験・職場見学（老人介護施設，アサヒ，花王，ダスキン）

◇ビジネスマナー講座，キャリア教育講演会

◇ハローワークと連携した生徒の自己実現に向けた支援のための進路ガイダンス

4 成果

老人介護施設や3つの事業所で実施した職業体験や職場見学では就労への動機付け，働く意義等について，ビジネスマナー教室では社会人としてのマナーや心得について意識させることができたことが事業実施後のアンケート結果からわかる。加えて，進路ガイダンスや普段の生徒への働きかけ等の学校全体の取り組みを通して，「働くことに対する意欲」や，「家庭で進路や将来について話す」の値が向上した。

※事業実施後アンケート結果 抜粋

(とても思う+思う)

事業名	質問	肯定的評価
職業体験・見学 介護施設・会社	将来の仕事について考えるきっかけになったか	90% (33+57)
	進路を選択するうえで参考になったか	72% (29+43)
	働くことの大切さについて理解できたか	91% (57+33)
ビジネスマナ ー教室 (2回実施)	積極的に取り組めたか	100% (40+60)
	ビジネスマナーについて理解できたか	97% (31+66)
	社会人・職業人としての心得を考える機会になったか	100% (46+54)
	ビジネスマナーの重要性を認識できたか	100% (43+57)

※学校評価アンケート結果 抜粋

質 問	肯定的評価%→	H30	H29	H28	H27
【生徒】今年度、アルバイトをしましたか。		79	84	72	62
【生徒】キャリア教育を通して、進路決定や働く意欲が高まりましたか。		100	74	78	75
【保護者】学校は、子どもに社会のモラルやマナーを教え、社会規範意識の育成に努めている。		100	94	94	96
【保護者】学校は、就労についての支援をしている。		88	88	100	86
【保護者】子どもは家庭で、進路や将来のことについて話をするようになった。		83	69	41	-

5 今後の課題

就労意欲が低い生徒も見受けられるため、入学後の早い段階で進路ガイダンスや職業体験・職場見学等を積極的に実施し、早期に進路意識を芽生えさせ、自分自身で進路選択しようとする意欲や態度の育成、継続して就労できる忍耐力を育成する必要がある。

2) ソーシャルスキル向上指導

① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

○とくしま中央一座の活動について

1 目的・ねらい

(1) 目的

これまで本校で取り組んできた人形劇団「とくしま中央一座」の取り組み（H22年にスタート）を継承する形で、本年度は本事業に移行導入した。目的・ねらいは以下の通りである。

一つは、ソーシャルスキルの向上（シェアリング法により高める）。

一つは、他者を思いやる心を育む。

一つは、外部公演というボランティア活動を通して、異世代間の交流を図ると共に社会貢献を果たすことで自己有用感を獲得し、社会的存在価値を見出す。

(2) ねらい

シェアリング法を取り入れたソーシャルスキルワークにESD（Education for Sustainable Development：持続可能な社会づくりの担い手を育む教育）の理念を加え、創意工夫・試行錯誤・切磋琢磨しつつ、生徒自身が「やらされた感」のないクリエイティブな芸術性の高い人形劇団をめざす。上演の質を高め、「人形フェスティバル」や「とらまるパペットランド」での公演を目標においた活動を平素から展開する。また、未上演の保育施設や障がい者施設、公共施設へと活動の場及び交流の輪を広げ、人権やエコロジーをテーマとした人形劇に取り組むことで徳島中央高等学校のイメージアップを図り、社会とつながり協働して、文化の振興や明るい社会づくりの推進に寄与する。

2 内容

現代人形劇という芸術的表現活動を通して、図画・工作・歌・シナリオをグループワークによって創作し練り上げ、絵本童話の世界を三次元化する。完成した人形劇を保育園・小学校学童クラブ・障がい者施設・高齢者施設・図書館・書店等で上演することにより、異世代の方々や障がいのある方々との交流を図り豊かな社会性を身につける。（本年度8月全国高等学校総合文化祭人形劇部門へ出場。）

3 取組

*人形劇を「創る」「演じる」ということ～創作過程から歓喜の上演へ～

メンバーの多くが小中学生時代に不登校を経験していることもあり、人前での表現は過度の緊張を伴うが、脳を活性させ、心を喜びで満たす体験となる。外部公演で認められる拍手を他者（フロア）から受けると、喜びが充実感を伴って心に迫り、魂の癒しをもたらす。それは、傷ついた精神を再生へととぎやまない、心理療法さながらの効果を生んでいる。継続しているうちに、自己という存在に気づき、自己をメタ認知できたことで周囲の世界が見えるようになり、他者とつながることの尊さや価値を知る。これまで感受性を閉ざしてき

たメンバーたちにも、「自分も人のために役に立つことができる」といった利他心や奉仕の精神が芽生える。結果として、情熱・感謝・思いやり等々、目に見えないものに対して意識が及ぶようになり、「この世界は全ての存在が、人や物、自然界とつながって生きている」ということを理解する。(授業者はそのことを彼らに言葉で伝え、感覚的に意識が持てるように導いてきた。) 童話や芸術と呼ばれるものを生み出してきた先人からの言葉や思い(想い)や世界観が時空を超えて人形劇として体現されるとき、心があらわれるような魂の発露を感じる瞬間やハートウォーミングな(心温まる)ひとときを味わうことが可能となる。授業者もメンバーたちと同様にファンタジックなロマンを感じずにはられない。そして、過去・現在・未来へと日一日と変容し続ける自らと世界を慈しむ態度を共に涵養したいと願う。小中学校時代、「学校」という場所から置き去りにされてきたメンバーたちと、上記「2」で掲げた「目的」に加え、再び「学校」という場所で学校生活を取り戻す営みとして、この授業活動を展開しているのではないかと、とも思える瞬間がある。

4 人形劇を創作する具体的な手順

- (1) 原作となる絵本の選定 → 著作権の許諾を得る
- (2) キャラクターの役割分担を決める
- (3) 台本づくり&読み合わせ → 原作からのシナリオ化とアレンジ
- (4) 主題や作品を演じることのねらいの確認と共通理解
- (5) パペット人形の製作もしくは調達, 小道具・大道具づくり, BGM・歌・効果音の製作
- (6) 舞台稽古 → シナリオの修正, 追加
- (7) 本格的な舞台稽古 → 立ち居振る舞い, 所作, 舞台道具の位置の確認
※どうすれば、より面白くなるか? 観劇する側の心に響く人形劇と成り得るのか?という視点で、セリフやパペットの動き, BGM・歌・効果音の製作を修正したり, 追加を重ねてりしていく。セリフが覚えられ, パペットの動きが体得できるまで, 繰り返し練習する。
- (8) 練習風景・外部公演等で上演したビデオを観直し, 出来栄を検証する。

5 上演作品について

本年度は、本校通信制課程の卒業生でもある絵本作家の魚井美恵子氏(徳島市在住)の『くねくねさんぽ』(かすずき出版)『くわせろ』(金の輪社)と絵本作家 重森千佳氏の『おおかみだってきをつけて』(フレーベル館)の3冊をシナリオ化し、人形劇による上演作品とした。社会通念として忌避意識が持たれ、嫌われキャラである「ヘビ」や「オオカミ」を主人公に据え、ポジティブに逞しく生きる姿にスポットを当てた絵本童話を扱うことで、嫌われキャラが実は優しく思いやりを持つ存在であったり、不安や周囲に対する疎外感を感じて生きている存在であったりすることへの理解を求め、訪れた場所に集う観客の方々へ向けて発信するというスタンスで上演している。

6 上演日程

日 時	イベント	場 所
6月 3日(日)	土成子供まつり	阿波市立土成図書館
7月 28日(土)	人形劇公演	附家書店国府店
8月 1日(水)	人形劇上演会	小松島市小学校学童保育クラブ
8月 8日(水) ～10日(金)	全国高等学校 総合文化祭出場	長野県飯田女子高等学校講堂
11月 4日(日)	本校文化祭	徳島中央高校大会議室(文化祭上演)
11月 30日(金)	人形劇師の方による 実技指導 講師 くすのき燕さん	徳島中央高校大会議室 (総学コース別)
12月 22日(土)	阿波市吉野図書館 クリスマス会	阿波市吉野図書館
12月 23日(日)	にんじんの会クリスマス会	しらさぎ台街つくり活動センター
1月 12日(土)	新春人形劇上演会	鴨島児童館
1月 18日(金)	新春人形劇上演会	青葉保育園
2月 9日(土)	人形劇研修会	とらまるパペットランド
2月 23日(土)	人形劇公演	附家書店国府店



附家書店公演 (7/28)



作家の魚井美恵子氏を囲んで (7/28)



全国高等学校総合文化祭のリハーサル（8／8）



全国高等学校総合文化祭当日の上演風景（8／9）



全国高等学校総合文化祭上演を終えて（8／9）



徳島中央高校文化祭上演風景（11／4）



人形劇師くすのき燕さんから技術を教わる（11／30）



NPO法人にんじんの会の皆さんとのクリスマス会（12／23）

7 参考文献（授業で使用した図書）

- ・『くねくねさんぽ』 魚井美恵子：文 星野ミク：絵 [すずき出版]
- ・『くわせろ』（読書リレー） 魚井美恵子：文 宮本忠夫：絵 [金の環会]
- ・『おおかみだってきをつけて』 重森千佳：著 [フレーベル館]
- ・『ホリスティックに生きる～目に見えるものと見えないもの～』 今井重孝ほか 編 [せせらぎ出版]
- ・『わたしの森に』 アーサー・ビナード：文 田島征三：絵 [くもん出版]
- ・『持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）』 [文部科学省：日本ユネスコ国内委員会HPより]
- ・『地平線の彼方』 葉祥明：著 [愛育社]
- ・『ふたりはいつも』 アーノルド・ローベル：作 三木卓：訳 [文化出版局]

8 成果

- ・対人面で過度の緊張を感じていたメンバーたちが、人前で人形劇を演じることで、物怖じしない自信を獲得し、フロアの見知らぬ人々との一体感を持ち、上演後にも異世代間交流を図ることで、社交性を高めることができた。また、メンバーで協働して物事を成し得ることの大切さを学んだ。
- ・普段の会話にも支障をきたしていたメンバーが、見守りの対話活動（穏やかな口調、相手を受け入れるという姿勢）をグループワークの中で行ってきたこと、そして、人形劇の活動を通して自分に自信が持てるようになったこと等により、日常会話においてスムーズに会話ができるようになった。
- ・何事にも否定する場面や後ろ向きな発言の多い傾向を示していたメンバーの一人が、本授業活動によってポジティブな言動が増えてきた。

※グループワークの方法については、鳴門教育大学教職大学院教授 小坂浩嗣氏に師事し、インサイドワーク＝（自分自身への振り返り）、アウトサイドワーク＝（他者から評価を受けての振り返り）という手法を用いている。これを、シェアリング法という。仲間と心をつなげて、絵本（ファンタジー）の世界に浸り、それを思いを語り合うという作業を繰り返して、ソーシャルスキルを磨きながら人形劇としてリアルに表現する。

9 今後の課題（これからの方向性）

- ・人形劇団としてのチーム力の向上と芸術性の高揚をめざすこと。
- ・メンバー一人一人の人格の陶冶と意思決定能力の獲得をめざすこと。
- ・メンバー一人一人が利他心を養い、人々と繋がり、将来的に社会へどのように貢献して行くのかを模索すること。
- ・授業を担う指導者の育成と、指導を行う上での専門性の向上を図ること。

○2年次「国語総合」科目における読み聞かせ絵本探求授業について

1 目的・ねらい

2年次「国語総合」科目等において、名作絵本に触れることで情操を豊かにし、生徒の自己有用感を高め、読書活動に親しむ態度を育成する。その中で、絵本作品について、テーマ・内容・登場人物・作者の思い等々をワークシートに記入させ、「生徒の気づき」を中心にフィードバックすることにより、絵本の世界を深く読み味わうとともに、物語作中に登場する主人公の生き方や考え方に思いをいたし、生徒一人一人が自らの人生を豊かに生きようとする元気や優しさを養う契機となればと考え、本事業の支援を受けて新たな取組の歩みを始めた。

2 内容

これまで、読み聞かせボランティアグループの読み手の方々と、綿密な打ち合わせを行い、生徒たちの読書体験を積み重ねる取組を通して、言語感覚を養うことや自尊感情を高めることに繋げてきた。

そして、今年度は、「読み聞かせ授業」を実施するだけでなく、取り上げた絵本作品のストーリーやテーマ、主人公やその他の登場人物の生き方や考え方についてじっくりと読み味わい、作品世界を探究させることを生徒たちに試みさせ、ワークシートをもとに作品理解及びテーマへの考察を課した授業を展開した。

以下、「3」の「取組」に、その授業活動で実施したインサイドワークによる振り返り学習とアウトサイドワークによるフィードバックした内容を記した。

3 取組

社会人の読み聞かせサークル「吉野川市よみきかせグループかぶとむし」から講師を招き、年間20回の読み聞かせ授業を実施した。対象は2年次の「国語総合」の科目および2・3年次選択科目における「古典基礎」の科目においてである。毎時間（指定された「絵本探求」の時間）、生徒は前半の時間に読み手の方からの「絵本の読み聞かせ」を聴き、後半の時間にその読み聞かせて戴いた絵本作品のテーマや内容、作者の思いをワークシートに記入し、振り返りを行うという展開で授業活動を試みた。

※ 「国語総合」絵本探求ワークシートの記録（抜粋）

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
第〔 1 〕回 10月18日実施 2年次3クラス	泥かぶら [瑞雲社] 読み手 藤川 眞弓さん (読み聞かせグループかぶとむし)	原作 眞山 美穂 文 くすのき しげのり 絵 伊藤 秀男
心に残るフレーズ	<ul style="list-style-type: none">・旅の老人が言った「どんなときも笑顔で人の身になって思う、恥ずかしいと思わない」・次郎兵衛にお土産を持って来たときのセリフ「だってあたいにできることなんだもん。」・「汚いものはおぬしの心」という老人の言葉。・心についた泥。顔は変えようと思えば変えられる・旅の老人の「いつも前を向いて、笑顔でいなさい」・人の身になる…。・旅の老人が泥かぶらに教えた三つの言葉。(その老人のお陰で泥かぶらの心が前向きに変わったから。)・「みにくい」「きたない」	

<p>印象に残った場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・泥かぶらが旅人と話をして褒められたところ。 ・自尊心の覚醒，他者への思いやりや暴言暴挙の封印，笑顔を絶やさない。 ・次郎兵衛の心境の変化。泥かぶらが何をされても笑顔を絶やさないところ。 ・誰でも綺麗になれると言ったところ。 ・泥かぶらが次郎兵衛に連れて行かれるところ。 ・いじめっこに対して「心が汚い」という場面。 ・泥かぶらと旅の老人とのシーン。 ・泥かぶらが前向きになって，その後，周囲の人たちも良い方向に変わったところ。 ・次郎兵衛が泥かぶらに手紙を残す場面。 ・泥かぶらが良い行いをすることによって色んな人の心が変わって行ったところ。 ・旅の老人が泥かぶらに「ちょっとつらいぞ」と言った場面。 ・次郎兵衛が泥かぶらの前から姿を消したところ。
<p>泥かぶらについて 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・変わる努力をされていてよい。真面目になった素直な子。 ・老人の助言によって少しずつ本当の意味で美しくなった。 ・心の強い人。明るい。優しくなった。芯が強い。 ・実際はいい人。 ・自分をいじめていた人にあんなに優しく接していける心がすごいと思った。 ・みにくく生まれた時点で終わり。 ・最初はすごくいじめられていたのに，人の役に立って仕事をするのは凄いとしました。 ・旅の老人に言われた通りにして，いい子になって人生が変わった。親切で優しくなった。 ・他人のために，自分が身代わりになることをためらわない心を持つ。 ・つらいことを我慢して何をされても笑顔でいる泥かぶらがすごいと思った。 ・だんだんと人に優しく，人として成長していくところがいいと思う。 ・老人から聞いた言葉を信じてそれをずっと意識して行動に移していく姿にとっても感動した。
<p>旅の老人について 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この人が泥かぶらに美しくなるきっかけを伝えなかったら，どうなっていたんだろうと思いました。 ・明るく親切で優しい人。 ・泥かぶらの生き方を変える発言が素晴らしいと思った。 ・変わるヒントを与えていてよい。人を素直にさせる達人。 ・優しく，本来の人としてのあり方を示した。親切。

	<ul style="list-style-type: none"> ・神様のような人。泥かぶらにとって大切な人。 ・物語の中で一番優しい人だと思います。神様のような人だと思いました。 ・泥かぶらの生き方を変えた人。 ・そんなことでキレイになれるわけがない。根本的な解決はできていない。 ・泥かぶらに「美しくなれる」って言ったところがすごいと思いました。 ・人間の鏡だと思う。 ・長いこと生きていてただあって言っていることの意味が深いと思った。 ・泥かぶらに3つの事を教えられる旅の老人もきっと心が美しい人なのだと思います。 ・三つの大切な事を教えてあげることで泥かぶらに変わるきっかけを与えてあげたんだと思う。 ・泥かぶらが旅の老人と出会えたことで、泥かぶらの人生が大きく変わって神様からのアドバイスに思えた。
<p>こずえについて 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひどいと思ったけれど、最後はいいやつだと思った。 ・ぶたれないために、泥かぶらにお願いしていたのに、最後は自分を守ってくれた泥かぶらのことが好きになったのかと思った。 ・泥かぶらに助けられて、「ありがとう」の気持ちを言葉だけでなく、自分の大切な物を渡して行動に移すのは偉いと思った。 ・(最初は)泥かぶらのことをいじめていた。 ・自分がしていたことが間違っていたと気づいていたのでよい。 ・卑怯者・小心者だが、きちんと謝ることができた。 ・泥かぶらに助けられたことで自分自身も変わった。 ・都合のいい人。 ・性格は悪いけれど根は優しい人。 ・かなり最低な人だと思いました。 ・根性叩き直してやりたい。 ・人の容姿についていう前に、自分を磨け。 ・泥かぶらにしまったことに罪悪感を持って謝りに行ったのはえらいと思った。 ・最低な子だと思いましたが、一番大事にしている櫛を渡すということは本当は優しい子だと思いました。
<p>次郎兵衛について 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで悪いことをしていたのに、最後泥かぶらを守るための行動は簡単にできることではないのでカッコいいと思った。 ・悪人？だったのに泥かぶらのおかげで自分も人の役に立つような人になろうと思っていた。 ・最終的に泥かぶらの幸せを思い、また泥かぶらの身を守るために彼女の傍を離れたのはすごいと思った。 ・泥かぶらの優しさから心を入れ替えることができて良かった。 ・根はいいが小心者。 ・心を閉ざしていたが、泥かぶらの影響により心を開き、泥かぶらを助ける決心をした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・本当は優しいいい人。 ・頭の回転が速い人。 ・泥かぶらと出会い、生き方が変わった。 ・実は、結構性格が良かった。 ・(後半) 泥かぶらのお父さんみたいな存在になった。 ・悪いことばかりしていたけれど、泥かぶらのお陰で恥ずかしくなり、悪いことをしなくなった。本当はいい人。 ・悪人なのに泥かぶらと一緒にいることで次郎兵衛の心もきれいになっていったので、いなくなった後どうなったのか気になりました。 ・悪人として仕事をしていたが、泥かぶらと出会ったことで仕事をやめるところにまで変わって行って泥かぶらに影響されていった。
色づかい レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の特徴をよくとらえていた。 ・このタイトルとマッチしていた。 ・すごくカラフルだった。色々な色を使っていて表情が豊か。 ・色々な色を使っていたから見やすかった。 ・パリピ(皆で楽しい)感があった。派手。濃い色。 ・泥かぶらを中心に書いていた。 ・色とりどりで色遣いが良かった。 ・カラフルだった。 ・色が豊かで場面が分かりやすい。 ・昔っぽくて色使いが綺麗。色使いが大胆
仕掛け等… 作品に意味を持たせているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめをなくす。 ・場面が分かりやすいように、回想や思いを具現したオノマトペ。 ・最初は、汚い・ブスといった言葉遣いだったが、最後のほうは、笑顔などいい言葉が使われていた。 ・いじめられているところから、村の人達に信頼されるまでの泥かぶらの成長。
作者の思い	<ul style="list-style-type: none"> ・人は変われるということを伝えたいのと思う。 ・周りにどれだけ泥かぶらの悪口を言っている人がいても、いつかは泥かぶらの良さを分かってくれる人はいるということ。 ・どんなにつらくても人は変われる。自分から変わろうとする努力。 ・人間の改善性の提示。やる気があればできるということ。 ・積み重ねは大事。笑顔の大切さ。 ・真心を知ってもらいたい。 ・人は誰でも変わることができる。 ・人に優しくすること。 ・差別をなくしたい思いと前向きに生きる大切さ。
テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・清く、正しく、美しく、人はいつからでも変われる。 ・いじめをなくしたい人なんだなと思いました。 ・いじめをせずに、清く正しく生きる。 ・変わるには努力が要る。 ・いいテーマだと思いました。 ・人間の本来の姿。人は変われる。 ・いいことをすれば、自分にもいいことが必ず返ってくること。 ・読み聞かせを聞いていて、意味がよくわかった。

感想・意見等

- ・人の心は、人の心を動かすということが分かりました。私も人の心を動かせるような心を持ちたいと思いました。
- ・何かのきっかけで人は変われると思いました。誰に対しても優しく親切にしたいです。
- ・自分も人の手伝いなどをして役に立つ人になろうと思った。
- ・最初、泥かぶらは皆から嫌われていたのに、泥かぶらが周りの人に優しくして助けたことで周囲の人たちの心も変わっていったので心に残っている。
- ・僕にとって難しい話でした。
- ・心に残るお話でした。
- ・いい本だった。
- ・人は変われると思った。
- ・私は人を助けるために、何か努力しようと思った。
- ・自分も人の役に立てるような人間になろうと思った。
- ・自分も少し変わろうかと思えた。決心が大切で、そのためには根気が必要だが、頑張っていれば報われる。感動した。
- ・人はいつでも、思えば変われる。笑顔って素敵なこと
- ・読み手の表現がよく、引き込まれた。
- ・心についた泥を落とせば、顔もきれいになるんだなと思った。
- ・人の美しさややさしさが分かる文章がたくさんあり、作者も、きっといい人だと思う。
- ・心の美しさと優しさは持てそうで持てない。
- ・絵本だからできるただの美談。
- ・心に刺さった。
- ・痴漢や強姦されても笑って耐えているのと同じものだと思う。
- ・いじめられていたのに、我慢して皆の役に立つのはすごいと思いました。
- ・キレイになるには顔を整形するしかないと思っていました。でも、こんな風にしてもキレイになれるんだなと思いました。努力はあるけれど無料でキレイになれるのはいいことだと思いました。
- ・人間も心についた泥を落とすことができれば、人間の本質にある美しい真心が現れるのだと思った。(便乗しました。)
- ・良い絵本だった。
- ・心が温かくなるいい話だと思った。
- ・泥まみれなかぶらも泥をとれば白いきれいなかぶらが出てくる。人も心が泥まみれなら、それをとれば良い、やり直せる。

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
第〔 2 〕回 10月25日実施 2年次3クラス	100万回生きたねこ 〔 講談社 〕 読み手 森住 啓子さん	作 佐野 陽子
心に残るフレーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・「100万回死んだよ？」と自慢して「そう」と言われるところ。 ・「おれは100万回死んだんだぜ。」 ・白いねこと一緒にいたいと思った。 ・「となりにいていいかい？」「ええ」 ・「ねこは二度と生き返りませんでした」というところ。 	
印象に残った場面	<ul style="list-style-type: none"> ・白ねこと出会うとき。 ・最後、白ねこと出会ってからの場面。 ・王さまやサーカスなど色々の飼い主のところに100万回も生き返ったというところ。 ・白いねこが好きで隣でいようと言っていたところ。 ・白いねこと出会って自分以外の人を好きになったこと。 ・白いねこが亡くなったとき。 ・白ねこと寄り添っているところ。 ・「ねこは、白いねこと一緒にいつまでも生きていたいと思いました。」というところ。 ・白いねこが死んだ時にとらねこが白ねこの横で100万回泣いたところ。 ・最後、とらねこが生き返らなかったところ。 ・白いねこが死んで、とらねこが初めて（100万回）泣く場面。 ・白いねこに「一緒にいていいかい」と言うところ。 ・100万回～と言わなくなったところ。 ・白いねこが亡くなってとらねこが泣いている場面が印象に残りました。 ・若い二匹のねこが結ばれて、子供が出来て子供が巣立っていき、ねこ二匹が動かなくなった場面。 ・ラストシーン、白いねこに寄り添ったところ。 	
それぞれの飼い主について思うこと (王さま・船のり・サーカスの手品つかい・どろぼう・おばあさん・小さな女の子)	<ul style="list-style-type: none"> ・どの飼い主もとらねこのことを愛していたんだと思った。 ・とらねこに嫌われていた。 ・死んだときに泣いてくれる、いい人たち。 ・それぞれ猫を大切に思い、きちんと埋めてあげていたのが印象深い。 ・みんなねこのことが大好きだったから、たくさん泣いたと思う。 ・あまりいい人たちではない。王：自分のすごいところを猫に見せたかったのだろうが、考えが浅い。船：事故で仕方がない。手品師：仕方がないが、猫で手品をしなければよかった。盗ぼう：まぬけ。どろぼうするからバチがあたった。媪：ちゃんと最後まで甘やかしてえらい。少女：王様に似てははじゃぎすぎ。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・どの飼い主もねこが死んだ後に泣いているので、死んでしまった後にねこの大切さに気付いているように思う。 ・皆、ねこが好きだったので一緒にいたかった人だと思いました。 ・どの人も最後は、大泣きしているからそれほどかわいがっていたと思う。
<p>とらねこについて 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・死ぬことに慣れていそう。 ・素直じゃない猫 ・自尊心が高い ・白ねこのことを自分より大事に思うことが100万回目でできたのだ「最終いい男！」って感じ。 ・自分が好きだと思えるものを見つけたかったんだと思った。 ・100万回も生き返ってすごいと思った。自慢げ。 ・白い猫を好きになり、素直に伝えたのがよい。愛する者と死にたかったのかも。 ・やっと自分が大好きになれてよかった。 ・淡泊 ・完全無欠の存在と思い込んでいたが、白ねこの言動を受け謙虚になった。自慢する側から素直な側にまわった。改心してすごい。 ・愛を知らなかったねこが、愛を知ってからとても優しくなった。 ・愛される側ばかりだったとらねこが本当の愛を知り、悲しみを知っていくのが泣きそうになりました。 ・自分が大好きなとらねこであったが、白いねこ出会い、白いねこ子供が大好きになり変わったと思う。 ・とらねこは飼い主が嫌いであっても、いつもいっているところが不思議でした。
<p>白いねこについて 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・猫のこまかいところや色使いが良くてデザインが良かった。 ・白いねこもとらねこが大好きだった。 ・かわいい。 ・とらねこを変えた白ねこに凄い魅力を感じる。 ・最初はとらねこに冷たかったけど仲良くなった。 ・のらねこになったとき、自分が大好きだったけど子ねこが生まれてからは、自分より子ねこの方が大好きだった。 ・色が綺麗だった。 ・(案外)優しい ・おとなしい ・無口 ・とらねこに一目惚れして恥ずかしかったのかも。 ・本当のとらねこの姿を見抜いている。素直になれば相手を認める様は器が広い。 ・最初のとらねこと同じで愛される側なのでもしかしたら、白ねこは生き返るのかなと思いました。 ・あまり自分の感情を表に出さない子供が巣立ったあとののどをならすところが母親らしさがでていた。 ・とらねこに対しても素っ気ない態度を取りつつも一緒にいてあげる優しいねこ。

<p>色づかい レイアウト 装丁（表紙デザイン）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着くような色使い。ふんわりした描き方。 ・色々な色を使っていて表情が豊かだった。 ・柔らかな色使いで綺麗。 ・ひとつひとつの動作がすごくわかりやすいし、可愛いなと思った。 ・色があざやかで、ごちゃごちゃしてなくて見やすい。 ・シンプルだった。 ・鮮やか ・淡くて少し暗い ・カラフル ・最初は悲しいどんよりした雰囲気、黒が多めだったが、とらねこが幸せになるにつれ、色が明るくなっていった。 ・心情が分かりやすい。 ・主人公のねこの色が少し黒いところが、ひねくれもの感を出している気がする。
<p>作者の思い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつどんな時に命を失うかわからないから、大切にしてほしいと伝えなかったと思う。 ・今を精一杯に生きる！ ・最後は自分以外を好きになるってところ。 ・とらねこと自分の人生を照らし合わせたのかなと思いました。 ・自分の過去を織り交ぜているのかも。 ・どれだけ長く生きても大切なものを見つけなければつまらない。大切なものを見つけた時こそ光るものがある。 ・ただ生きるのではないということ。 ・大切な人をなくすということが、どんなに悲しいかを伝えようという気持ちがよく分かった。
<p>テーマについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大切な人を亡くしたことはわからないけど、悲しませないようにしたい。 ・輪廻転生の果てにつかんだ真実の愛。 ・死と愛 ・命の尊さ ・100万回目は意味のある死に方？と考えました。 ・他人に望むのではなく、大切なのは自分から改変すること。 ・真実の愛に出会えれば、どんなものでも変わるんだと実感できる。
<p>感想・意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もし自分も100万回生きたらどんな感じなんだろうと思いました。 ・私も初めてこの絵本の話を知りました。また、図書館に行ってこの絵本を借りようと思った。 ・失った人を取り戻すことはできない。 ・絵本のファンタジーなストーリーで、生きては死んでの繰り返し……毎日悔いのないように精一杯生き続けたい。 ・前にも読んだことあるけど、この本は好きです。白いねこは凄いです。例えるなら、私も白いねこみたいになりたい。 ・この絵本は小学生の時に知り、かれこれ3～4回くらいよんだことがあります。いつも最後のシーンは、とらねこが幸せになったから生きかえらなくなったんだと思っています。 ・せつなかった。 ・（作品の）終わり方がよかった。 ・感動した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一冊にたくさんの人生がつまっていた。 ・自己本位であるうちは大切なものは見つからない。素直なことが大切である。 ・以前から見知っていたが、改めて好きな絵本だと思った。 ・愛を知ったねこは愛するものを亡くすことがどれだけつらいか知った。
--	---

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
第〔 3 〕回 11月8日実施 2年次3クラス	『風切る翼』〔講談社〕 読み手 藤川 眞弓さん (読み聞かせグループかぶとむし)	文 木村 祐一 絵 黒田 征太郎
心に残るフレーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・「オレ、飛んでいるぞ！」というところ。 ・フレーズではないけれど、クルルとカララの愛はすごく強いなと思いました。私は弱くて情けない人間だけど、クルルやカララみたいに強い友情、相手を思いやる心だけは誰にも負けない！ ・クルルが「一緒にいてくれるかい？」といってカララが「もちろん」と言ったところ。 ・「こいつ覚悟をしている」 ・「何もかもが信じられない」 ・最後の場面でカララがクルルに対して「一緒に行ってくれるかい」と言ったところ。 ・「一緒に行ってくれる？」 ・「カララは覚悟していた。」 	
印象に残った場面	<ul style="list-style-type: none"> ・カララが、飛べないクルルの所に降り立った場面。 ・クルルとカララの友情。 ・最後のキツネにおそわれる場面。 ・仲間が羽ばたくところ。 ・クルルが皆に悪者にされた時。 ・クルルが飛べない時、カララがクルルに寄り添ってあげた場面。 ・クルルとカララが最後に一緒に飛び立った場面。 ・キツネに襲われそうになったカララをクルルが助けたところ。 ・カララが何も言わずに隣にいるところ。 ・カララがクルルのために羽ばたいたところ。 ・クルルを犯人に仕立て上げて、いじめのターゲットにしたところ。 ・飛べなくなって、草原でうずくまっていたところ。 ・クルルとカララと一緒に飛んだところ。 ・カララがクルルをずっと待っていた場面。 ・クルルとカララと一緒に飛び立つシーン。 ・ラストシーンできつねから逃げようとして、飛べなかったはずのクルルが逃げたところ。 	

<p>クルルについて 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周りにいじめられていたので、自暴自棄になってしまっていたが仕方無いなと思った。 ・クルルは自分自身を責め続けていた。最初はひとりぼっちだったクルル、カララがそばにいてくれた。 ・仲間のツルがキツネに襲われて、クルルのせいになされていた。 ・自分ばかりを責めていた。 ・気が弱い。 ・悪くない。 ・最後の場面でキツネに襲われたとき、飛ぶことが出来て良かった。 ・可哀そうだなと思った。 ・裏切られて辛かったと思う。 ・かわいそう。 ・びんぼうくじを引いた可哀想なやつ。けれど芯は強い。 ・すごい。 ・仲間に裏切られ、何も信じられなくなるのは誰でもなることだと思うし、最後に飛べることができたのはクルルにとって大きな一歩だと思う。 ・仲間にえさを分け与えただけなのに、クルルのせいになされて本当に辛いだろうと思いました。 ・いじめられ仲間はずれにされるが最後は良かったと思う。
<p>カララについて 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周りがクルルをのけ者にしていたので、クルルと関わった時の事をずっと考えていたのではないかと思った。(周りにクルルみたいなのけ者にされるのではないかな等) ・カララはすごく体が弱くてクルルからえさをもらっていた。クルルとカララの愛は無償の愛。 ・クルルは最高の友達を持ったと思う。 ・仲間を見捨てなくてえらい。 ・クルルに死んでほしくないという気持ちが伝わってきた。 ・最初、事件が起きたとき周囲に気遣ってクルルから距離をおいていたけれど、最後はクルルに寄り添ってあげていた。 ・やさしいツルだった。 ・ひどいと思ったけど、最後は感動した。 ・相手の気持ちが分かるいいやつ ・すごい ・本当はクルルに恩を感じていたが、なかなか言い出すことができなかったので、意思が弱いところがある。 ・どうしたらよいか、分からなかったのかも。 ・裏切り者。 ・クルルのことを本当に大切だと思っているんだと思った。 ・集団意識の一部であったが、覚悟をしたことはよかった。しかし、初めからできていたらなお良かった。 ・カララは自分ものけ者にされるのがいやという気持ちが勝ち、クルルを裏切り者にさせようとしている。 ・みんなと黙っているだけで、エサを分け与えたりしているクルルを無視して最低だと思ったけど、一緒に行こうと言ったとき感動しました。 ・クルルが飛ぶことができるようになるきっかけを作ってくれた。 ・自分がクルルに助けられたから自分もクルルをたすける。とても良いと思う。

<p>周囲の仲間 について思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カララ以外誰一人としてクルルを助けようという気持ちが無かった。そうならないようにしたい。 ・一人を責めるのは良くない。 ・協調性がない。 ・ヒドイ。 ・最低。 ・仲間外れはダメだと思う。 ・少し言い過ぎではないかと思った。 ・私たちと同じ。 ・勝手に決めつけたのが悪い。 ・冷たい。 ・誰かのせいにしないと自分たちの心が落ち着かない。仲間とっていいのかわからない。 ・他に責任をなすりつけるのは最低だと思った。 ・キツネにバレたのがクルルのせいだと決めつけて、本当に仲間なのかと思った。 ・強い集団意識が逆手に出た。日本人に似ている。 ・おろか。 ・自分がのけ者にされるのがいやという気持ちが勝ち、クルルを裏切り者にさせようとしている。 ・人間も一緒ですがみんながやっているから私もというのが、・見ていてすごく嫌な気持ちになりました。 ・責任をなすりつける、ひどい奴らと思う。 ・ひどい、だが仕方ない。
<p>色づかい レイアウト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きつねがアネイズルを襲っているシーンなど、すごく躍動感があり、リアルだと思った。 ・色使いがやさしい感じ。 ・彩色豊かだ。 ・色がころころ変わる。 ・青い色、淡い色を使っていて見やすかった。 ・おしゃれ。 ・濃い色や少し薄い色など使っていて、表現がわかりやすかった。 ・場面場面によって違う色使いがされていた。 ・とても見やすいデザインだった。 ・薄っすらとした色づかい。 ・雰囲気分かりやすい。 ・きれい。 ・あざやか。 ・要所で明るくなったり暗くなったりして、そのときの気持ちを表しているのかなと思った。 ・コントラストがあり、メリハリがある。クルルの悔しさが上手く表現されている。 ・クルルが暗い気持ちの場面は暗めの色使いが多かった気がする。 ・水彩っぽい感じで色の濃さやうすさがグラデーションっぽく表現されていて場面場面によってすごくわかりやすかった。 ・淡い感じ。 ・きつねの時だけはでな色。
<p>作者の思い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに対する対処法を一つ知ることができました。 ・一人にしない、味方になってほしい。 ・作者の人も言うように、他人事のように読んだらダメと思いました。 ・誰かの隣りに居てほしいという思い。 ・両想い。 ・ずっと苦しむわけではない。 ・いじめがなくなってほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でいるより誰かそばでいてあげたほうがよい。 ・平和と仲間を大切にする。 ・自分を守ってくれるやつはいるよ。 ・自分が悪者になって辛くても、ずっとうじうじしてはダメ。 ・一人でも仲間はずれの人達がでないようにカララのような人がふえてほしいと願っていると思う。 ・作者ももしかしたら、こういう経験があるのかなと思いました。こういう時に手をさしのべてあげることがあなたにできますか？と聞かれている気がします。
<p>テーマについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の心を思いやる気持ち。 ・今の世の中を再現していた。 ・私を失いたくない人なんているのだろうか、と思ったけど本を読んで、私からしたら失いたくない人はたくさんいる。・（「あなたを失いたくない、と思う誰かがきつといる。」に対して）いるかもしれないし、いないかもしれない。 ・芯を強く持ち、毅然であらねばならない。 ・「助ける」ということ。 ・カララが思った言葉なのかなと思いました。 ・悲しく、切ないイメージがある。
<p>思ったこと 感じたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が仮にクルルの立場になっても、立ち直れる自信が無いですが、カララみたいに困っているクルルがいれば助けてあげたいなと思いました。 ・いい話だった。小さい体で大きな山を越えるのがすごいなと思った。 ・私にはすごく中の良い親友がいます。その親友が悩んだり苦しんだりしたら側にいてあげたいし親友をもっと守ってあげたいと強く感じました。一人になっている人がいたら、側にいてどんな状況でも守ってあげられる強い人間になりたいです。苦しんでいる人がいたら私はほってはおけない。 ・ひとごとではないし、この先、自分がこういう場面にであうかもしれない。 ・仲間は大切だなと思いました。 ・協調性って大事だなと思った。 ・仲間外れにするってことは、本当に仲間と言えるのか？ ・仲の良かったクルルとカララがキツネに仲間を食べられるという事件をきっかけに距離が出来てしまっていたが、最後の最後にはカララがクルルの隣りにいた。自分もカララみたいな存在になれるように前向きに生活をして行きたい。 ・今、自分にも失いたくない人が居るから、その人のことを思って、今後の生活に生かしていけるようにしたい。 ・何で急に飛べなくなったのか？ ストレスが重なったから？ なのか。 ・アネハヅルというのを初めて知った。 ・クルルは優しいと思った。 ・困ったときでも、誰か一人は助けてくれる。 ・いじめはいつ起こるか分からない、身近なものだと思った。 ・何も言わずに仲間を思って側にいるのはすごい。

- ・自分がツルなら、多数側になっただろう。
- ・自分もカララのようになりたかった。
- ・こういうことはありがちなので、気をつけようと思った。
- ・誰もが失いたくない人を持っていると思う。
- ・本当に困ったときでも、必ず助けてくれる人が少なくとも一人はいるのかなと思った。
- ・日常生活でよくあることだからこそ、いつ起こるか分からない。けれど、いつまでもひねくれてはいけない。
- ・カララになれたらいいな。 ・いい話。 ・感動した。
- ・集団生活は、このようなことがよくあることだと思うので、勇気があることだが、カララのような気持ちをもてるようになりたいと思った。
- ・学校生活、社会などみんながやっているからやっていいわけじゃないと勉強させられる本でした。私もこういう場面になったら絶対に負けないです。
- ・集団の力ってこわいなあと思いました。
- ・最後は一緒にいたけど、1度でもうらぎったカララが嫌い。
- ・少し前に同じような事があったのでクルルがどう思っているのかとかすぐわかった。
- ・主人公は作者はいじめられても助けてくれるカララがいる。自分も助けてあげられるカララになれると私は思う。

読み聞かせ絵本探求プロジェクト2018 [第4回]

所要時間40分

<対象クラス：201HR（1限）202HR（2限）203HR（8限）>

<2018.11.15. THU>

<お話：森住 孝義さん>（よみきかせグループかぶとむし）

テーマ 「ようこそ！ 阿波人形浄瑠璃の世界へ」

ねらい 阿波人形浄瑠璃の世界を知ろう。江戸時代から阿波・徳島において隆盛してきた人形浄瑠璃。民衆の娯楽として絶大な人気を博した芸能であり、木偶（でこ）人形の造形美と、大夫、三味線、人形遣いら演者が織りなす芸術です。時代を超えて人々を魅了し続ける阿波人形浄瑠璃の世界へようこそ！！

書名	お話しのポイント等
『ようこそ！ 人形浄瑠璃の世界へ』	阿波人形浄瑠璃は、昔から徳島の伝統芸能として県民に親しまれてきました。今日の講師先生のお話しから、阿波人形浄瑠璃の素晴らしさを知って頂ければと思います。特に有名なのが、

講師 森住孝義 さん



人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」です。

この作品は、1698年に罪状も明らかにされないまま藩の政策上の犠牲となって処刑された庄屋、板東十郎兵衛の名を借りて、お家騒動の物語に仕立てたものと言われています。現在の徳島県立阿波十郎兵衛屋敷が、元々の阿波十郎兵衛の屋敷跡であり、「傾城阿波の鳴門」ゆかりの場所なのです。阿波十郎兵衛屋敷では、国の重要無形文化財「阿波人形浄瑠璃」を毎日上演しています。また、展示室では、阿波人形浄瑠璃の特色や木偶人形の展示を見学できます。今日の森住さんのお話を契機として、ぜひ、十郎兵衛屋敷に足を運んでみてください。

内容

- 1 人形浄瑠璃って？ 2 太夫・三味線・人形つかい 3 人形浄瑠璃の歴史
- 4 阿波人形浄瑠璃 3つの日本一！！ 5 木偶（でこ）人形 大きさの比較
- 6 人形遣い 7 阿波の箱回し（大道芸） 8 お正月の門づけ（祝福芸）
- 9 犬飼農村舞台 10 襖（ふすま）からくり 11 阿波「藍」と人形浄瑠璃
- 12 傾城阿波の鳴門『順礼歌の段』



熱弁をふるう講師の森住さん



人形遣いの手ほどきを受ける生徒達

生徒の感想

僕は、人形浄瑠璃の劇中に御詠歌があることを知り、とても興味がわきました。自分もよく金剛流を練習しています。そんな昔から系統立って今日まで続けている人形浄瑠璃に驚くと共に深く感銘を受けました。（2年次男子）

私が人形浄瑠璃を知ったのは小学生の時でした。高校生になって徐々に国語の授業で教わる機会を得ました。以前に教わった記憶が甦り、懐かしく思い出しました。一体の人形を三人掛かりで操作するのを観て、改めて凄いなと思いましたし、手の動かし方によって顔の表情が変わって見えるのも、凄いなと思いました。（2年次女子）

僕は人形浄瑠璃の歴史が、そんなに古いものだとは思っていませんでした。父親が高校時代に部活で浄瑠璃をしていたと聞いていたので、一度は触ってみたかったですし、徳島の伝統文化なので凄く興味がありました。そして今回、女の子の木偶人形に触らせてもらったあの感触は忘れません。製作者の職人さんの文化を守ろうとする魂を感じました。（2年次男子）

木偶人形を遣ってみて、動かすのがとても難しかったです。講師の先生方が動かしているのを観て、とても素晴らしかったです。僕もお二人のように人形を動かそうと頑張ったけど、上手くできませんでした。説明を伺って、阿波人形浄瑠璃の世界は、とても奥が深いなと思いました。(2年次男子)

僕は、森住孝義さんによる「阿波人形浄瑠璃の世界」の講義を受けて、実際に人形遣いを体験して、人形を動かす大変さや人形浄瑠璃の歴史など、色々なことを教えてもらって楽しかったし、凄く勉強になって良かったです。また機会があれば、舞台を見に行きたいです。それにしても、木偶人形はとても重くて、長時間持っているのはとても大変だと思いました。(2年次男子)

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
第〔 5 〕回 11月29日実施 2年次3クラス	『おかあちゃんがつくったる』 〔講談社〕 読み手 川端 美紀さん	文・絵 長谷川義史
心に残るフレーズ	<ul style="list-style-type: none"> 最後の場面のお母ちゃんが「ミシンでつくってん」というフレーズ。 お母ちゃんがつくったる。 ・ミシンでつくったる。 なんやほれえ〜。 ・ミシンでつくってん。 	
印象に残った場面	<ul style="list-style-type: none"> 最後のお母ちゃんのせりふが題名とピッタリで印象に残った。 よしふみの参観日に来た場面。 ・背広を着てお母ちゃんが立ってた。 最後の、ミシンで作ったんやが印象に残った。 ・よしおのかばん。 	
おかあちゃんについて思うこと	<ul style="list-style-type: none"> よしふみにとっては少しいやだったこともあったが、お母ちゃんにとってはよしふみへのやさしさのように思う。 お母ちゃんは子どものために一生懸命になってえらいと思った。 一日でカバンを作るとかすごい。 ・ポジティブ。 お母ちゃんはお母ちゃんなりにいろいろ考えているんだなと思ってこれからも頑張ってもらいたいという気持ちになった。 大阪のおばちゃんっぽい。 Gパンや体操服はともかく、スーツまで作れるのはある意味すごい。 	
よしふみについて思うこと	<ul style="list-style-type: none"> ミシンで作られるのは嫌でついにお母ちゃんに言いたいことを言ってしまったが我に返ってお母ちゃんが悲しがっていることに気づけたのが優しい子だと思った。 年を重ねるうちにお母ちゃんのやさしさがわかるようになっていった。 名前がかえられてかわいそう。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに笑われては恥ずかしいかもしれないけど、大きくなった時、笑い話ができるので将来楽しみだと思いました。 ・THE子ども。
周囲の仲間について思うこと	<ul style="list-style-type: none"> ・小三でからかいたい年頃なのでついからかってしまうもののように思った。 ・小学生らしいと思った。 ・べんべんべんって何？ ・私も多分よしふみ君がお母ちゃんを作ったものを着ていたら笑ってしまうかもしれないけど、手作りのものは売っていないし自分だけのものになるので少しいいと思います。 ・あれ、おれじゃね？
レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の絵が個性があって面白さを出しているように感じる。 ・顔が大きく表情がわかりやすかった。 ・けっこう、みやすかった。
作者の思い	<ul style="list-style-type: none"> ・親を大切にしてほしいという思い。
テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・物語が個性的で面白い話の内容に思えた。 ・ミシンの万能さ。 ・お母ちゃんの愛が本当に伝わるいい絵本でした。
思ったこと 感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・共感できるシーンもたくさんあったので見てて面白かったです。 ・人の頭がでかい。 ・親の愛って伝わらないですね。 ・お母ちゃんがすごい頑張っている感じが伝わって話を聞いてすごくほほえましい気持ちになりました。

	絵本のタイトル	作者・絵・訳者・読み手
第〔 6 〕回 2月17日実施 2年次3クラス	『父のかお母のかお』 〔雲母書房〕 読み手 堀江 満子さん	脚本 ときわ ひろみ 絵 渡辺 享子
心に残るフレーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争はしてはいけない……その言葉しか出てこない、私は人を助けたい！ ・お母さん！（和子の夢の中） ・全て。 ・「君たちをこんな目に合わせる大人たちはダメだね」と復員兵が言ったところ。 ・涙を流した時の復員兵の言葉。 ・母が「和子、昭一を頼むよ。」といったところ。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの似顔絵を見て「ぼくってお母さんにそっくりなのか」と昭一が喜んで言った場面。 ・母が「和子，昭一を頼むよ。」といったところ。 ・昭一の「大丈夫だよ。憲法で決まってもう戦争は二度としない」というところ。
<p>印象に残った場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・泊まりに来た，おじさんが2人のお父さん，お母さんの似顔絵をかいていたこと。 ・おじさんが描いた絵のお父さん，お母さんと話しているところ。 ・おじさんが戦争で亡くなったお父さんとお母さんの顔をかいて，和子と昭一が笑顔で会話したところ。 ・お母さんが空襲で家の下敷きになっている場面。 ・父母の絵もたてて，ご飯を食べているところ。 ・昭一が復員兵を連れて来たこと。 ・和子が家に復員兵を泊めたこと。 ・家に泊まったおじさんが寝ないで絵を描いた場面。 ・復員兵が描いた絵を姉弟が観て，「そっくりだ」と言った場面。 ・復員兵が似顔絵と手紙を残して行ったところ。 ・弟が母親に似ていると言ったシーン。 ・最後の復員兵の手紙を読むところ。 ・父母の絵が置かれていたところ。 ・復員兵が二人のために戦争で亡くなってしまったお父さんお母さんの絵を描いて，手紙を添えてくれたこと。 ・復員兵が大粒の涙を流したところ。 ・和子の夢。 ・復員兵が両親の似顔絵を描いてくれたところ。 ・最後の会話。 ・姉が戦争の夢を見ているところ。 ・和子の母が出てくる夢。 ・復員兵が大粒の涙を流している時に，和子と昭一が励ましていた場面。 ・母の絵，父の絵がでてきた時。 ・復員兵が絵を置いていった場面。 ・お父さんとお母さんの似顔絵を見ながら食べるシーン。
<p>姉・和子について思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おじさんを泊めるか迷ったけど，疲れている顔を見てほっとけなかったから泊めてあげて優しい。 ・弟の面倒をみたり家事をしていたのがすごいと思った。 ・お母さん，お父さんの代わりになって，昭一の面倒を見ているところ。 ・父も母もいないし，落ち着いてはられない弟を世話しているのが凄いなと思ったし尊敬しました。 ・しっかり者のお姉さん。年が近いとは思えない感じでした。 ・弟思いの頑張り屋さんだったと思った。 ・弟のために家事をする優しさ。 ・十六歳で家を切り盛りしているのは凄い。 ・苦労している子ども。 ・まだ16歳なのに家事を一人でしているのは凄いなと思った。 ・弟思いの優しいお姉さんでお母さんの存在。 ・しっかり者。 ・お母さんのようにしっかりと家事をしている。 ・いい人。

	<ul style="list-style-type: none"> ・弟の面倒を見ながらご飯を作ったり、洗濯をしたりして、とても頑張り屋のお姉ちゃん。 ・母のかわりに頑張っている。 ・きちんとした人。 ・学校に行かず、昭一の面倒を見たり、家事をしてしんどいはずなのに、何も言わずにしているのがすごいと思った。 ・年が私とあまりかわらないのに、家事などして弟のこともよく考えてしっかりしているお姉ちゃんだと思った。 ・家事をすごくがんばっていて、戦争の事がすごくトラウマになっているんだなと思いました。私も母と同じところにほくろがあるので一緒だと思いました。 ・女手一つで弟の世話をしている。 ・毎日大変だなと思いました。
<p>弟・昭一について 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていた人を助けようとしたことがすごいなと思った。 ・すごく元気で優しい男の子。 ・困っている人を助けてあげた。 ・The弟って感じでした。とても心の優しい子。 ・心の優しい子。 ・優しい子。 ・心のきれいな少年。 ・たくましい。 ・知らない大人に優しく接しているのは凄い。 ・いい人。 ・元気。 ・親の顔を知らないのは可哀そうと思った。 ・姉思いのいい弟。 ・困っている復員兵を助けた、とても心優しい弟。 ・幼い感じだが明るく、しっかり者。 ・誰にでも優しく接している。 ・7歳なのに思いやりがあって、しっかりしている。 ・7才というとても幼いのに、泣かずに毎日前向きに生きていてすごいと思った。 ・長女として弟の面倒を見ているのがえらい。 ・九九言えるようになってえらい。 ・迷った人を連れてきた時はすごくびっくりしました。元気な子だと思いました。 ・おじさんに書いてもらった絵のおかげで親の顔が分かってよかったと思いました。
<p>復員兵 について思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詐欺だと思っていたけど優しくあたたかいおじさんだった。 ・すごく優しくていいおじさん。 ・人に対してすごく優しい人。 ・苦労人の和子と昭一の顔をベースに父と母の顔を描くというのはすごく優しいなと思った。 ・心のおだやかないい人。 ・絵の上手な、すごく優しい人。 ・ふたりが泊めてくれたから、ありがたがっていると思う。 ・姉弟の顔を見ただけで、父母の顔を想像して描いたのは凄い。 ・とてもいい人だと思った。 ・優しい。 ・悲しみがすごく伝わった。 ・和子さんや昭一君に対して、ものすごく優しいおじさん。 ・骨を運ぶのはとても辛いことだと思った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオで言っていた人なのか気になる。　・絵が上手い。 ・二人のことを大切にしている。　・結局、詐欺師なのか気になる。 ・和子と昭一に「ありがとう」とずっと言っていて本当に感謝しているようだった。 ・悪い人かもしれないと思っていましたが、戦争の話をしている時、泣いていて絵と手紙を残していて本当にいい人だと思いました。 ・出て行くまで詐欺犯かと思っていた。
色づかい レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・見やすかった。　・柔らかい色使い。　・きれい。 ・あたたかい。　・全体的に優しい感じ。　・全体的にやわらかい。 ・遠くから見てもわかりやすい色だった。 ・場面ごとに背景の色が違っていてどんな場面なのかがわかりやすかった。 ・かわいらしい印象のレイアウトだったのが、いきなりリアルな顔になったりする。色彩豊かである。 ・話と色が一致。　・昔の風景が伝わってきた。 ・色が明るくて見やすかった。 ・分かりやすくて、入っていきやすい色だった。 ・いろんな色を使っていて、色づかいがきれいだった。　・鮮やか。 ・今にも動きそうな絵ですごいなと思った。 ・昔話っぽい絵柄でなつかしい感じがしました。　・昔なつかしい感じ。
作者の思い	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争はしてはいけない！ことを読者に伝えなかったのかな？ ・父母の大切さを教える為に描いたのではないかと思います。 ・ふたりの思い（親切心）をわかってほしい。 ・戦争はしてはいけない。　・戦争をこの世から消したい。 ・家族を大切にしてほしい。　・戦争に対しての強い悲しみ。 ・戦争の事を教えたかったんだと思った。 ・戦争のせいで大変な思いをしている人達がたくさんいたということ、今の子供たちに伝えようとしているように思った。 ・父のかおも母のかおも見ることができなくなる戦争はつらいことだと言っている気がしました。
テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・父のかおと母のかお、お姉ちゃん、弟どっちの顔に似ているだろって話していて私もどっちに似ているだろって絵本みていて思いました。 ・戦争をしてはいけない～たくさんの悲しみ。 ・戦争とは恐ろしいもの。　・戦争は悲しいということ。 ・両親を戦争で亡くした子どもたちの様子がよく分かる。 ・戦争の悲しみは、今後も伝えていってほしいと思った。 ・戦後も悲しんでいる人がいる。 ・戦争は本当に辛いことだと思いました。　・戦争は本当に良くない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の顔が似ていることもいれて「父のかお母のかお」というテーマのように思う。
<p>思ったこと 感じたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭一がおじさんを助けたことによって、おじさんが元気になれて良かったと思う。家には似顔絵と手紙を置いていて優しいおじさんだった。 ・お父さん、お母さん、おばさんが亡くなってしまったけど弟の面倒や家事を一人でしているお姉ちゃんがすごいなと思った。 <ul style="list-style-type: none"> ・今まで色々な戦争の話や本を読んだり聞いたりして心がすごく痛みました。私たちは恵まれた生活をしているんだな と身にしみて感じました！私は人を助けたい！と強く感じました。 ・父の顔、母の顔も見たことが無い人がいるというのを考えると、自分の母をもっと大切にしていきたいと思いました。 ・家族のありがたさ、大切さ。　・戦争の怖さがわかった。 ・私だったら和子みたいに、弟の面倒をみたり、お弁当をつくるなんて出来ないと思うから凄いなと思った。 ・戦争は二度としてはいけないと思った。 ・戦時中に父母を亡くし、それでも子どもだけで生きていくのは凄いなと思った。 ・今は普通にしていることが、昔は難しかったんだと思った。 ・似顔絵だけど、昭一が、父母の顔が観られてよかった。 ・今、普通の家で住めて、両親と一緒にご飯が食べられることが、どれだけ幸せなことかわかりました。 ・いかに自分たちが恵まれているかが分かった。 ・この時代は、何もかもが本当に辛かったと思います。今の時代に生まれてよかったと思います。 ・これから先、戦争がなくなってほしいと思った。 ・いい話だった。　・戦争はいけないと改めて思った。 ・良い紙芝居だった。　・こんな時もあったのか。 ・戦争は人の心をしあわせにしない。 ・両親がいるのが当たり前と思っていたが、当たり前じゃない。 ・復員兵が泣いていたシーンで戦争を経験している人は本当に辛い思いをしてきたんだと思った。 ・父親や母親などいるのが当たり前な自分。 ・母の顔も父の顔も見たことない弟が、男の人に話をして父と母にそっくりな絵を見てすごくうれしそうにしている良かったなと思いました。 ・戦争はしてはいけないと思いました。

※ 「古典基礎」絵本探求ワークシートの記録(抜粋)

◇読み聞かせ 第〔 1 〕回 感想 11月12日(月) 3限実施

【鉢かづき】

- ・鉢かづきは頭にかぶっている鉢のせいで皆からのけ者にされて自分に自信がなくなってしまっていたが、宰相と出会ったことで少しずつ幸せになっていき、宰相と駆け落ちする時に鉢がとれ、たくさんの豪華なものが出てきたのは、今までの苦しかった分、お母さんからの贈り物のように思えた。
- ・読み方が上手だった。
- ・ハッピーエンドで良かった。鉢かづきはいい子だと思った。
- ・とても絵がきれいで印象に残った。
- ・一生懸命読んでくれてうれしかった。

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
11月15日(木) 3限実施 古典基礎絵本探求授業 第〔 2 〕回	茂吉のねこ〔ポプラ社〕 読み手：森住 啓子さん (読み聞かせグループかぶとむし)	文：松谷みよ子 絵：辻 司
印象に残った場面	・魚をくわえたところ。 ・色遣い。	
色づかい・レイアウト	・きれいな色。 ・赤色が多かった。	
感想・意見等	・おもしろかった。 ・いい話と思った。 ・様々な試練を与えられているのに全てこなしているところが面白かった。	

	絵本のタイトル・読み手	作者・絵・訳者など
11月15日(木) 3限実施 古典基礎絵本探求授業 第〔 2 〕回	じごくのそうべえ〔童心社〕 読み手：森住 啓子さん (読み聞かせグループかぶとむし)	作 たじま ゆきひこ 他
印象に残った場面	・読み方が上手だった。 ・生き返る場面。 ・最後のシーン。 ・おなかの中。 ・火の車のところ。 ・そうべえたちが地獄の中でも全く苦しんでいなかった場面。	

色づかい レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい色や黒い色。 ・原色がいろいろ使われていた。 ・カラフル。 ・いろいろな色が使われていてカラフルだった。 ・とてもよかった。
感想・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話の本はおもしろいと思った。 ・鬼たちのサバイバルな感じが面白かった。 ・しゃべり方とストーリーがおもしろい。 ・また読みたい。 ・他の3人は悪いことをしていたが、そうべえは商売の内容だけで地獄行きが決まり、少しかわいそうと思ったが、商売のおかげで乗り越えられたように思った。

	絵本のタイトル	作者・絵・訳者など
11月15日(木) 3限実施 古典基礎絵本探求授業 第〔2〕回	ごんぎつね〔偕成社〕 読み手：森住 啓子さん (読み聞かせグループかぶとむし)	文 新美 南吉 絵 黒井 健
印象に残った場面	<ul style="list-style-type: none"> ・男性がごんを撃った場面。 ・食べ物をくれるところ。 ・ごんが兵じゅうのために、栗や松茸をこっそり持ってきた場面。 ・魚をくわえたところ。 	
色づかい レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・結構暗めのイメージが多かった。 ・いい。 ・黒い色。 ・柔らかいタッチで描かれていた。 	
感想・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ごんは自分がしてしまった過ちを少しでも良いことをして返していたが、男性はそれに気づかず最後にごんを撃ってしまい、悲しく切ない話だなと思った。 ・いい話と思った。 ・最後むごいと思った。 ・きつねがかわいかった。 ・ごんが撃たれたシーンがとても辛く感じた。 ・昔見たことがあるけれど久々に見たら切ない話だった。 	

以上のようなワークシートの記述が、生徒達の思考のプロセスから生まれ、学習の記録として留めることができた。絵本作品への理解や気づきから表出したヒューマニティやナチュラリティといった社会性が人間性を育み、引いては、その体験が自己効力感の獲得に繋がったことであろう。

4 成果

名作と呼ばれる絵本童話に触れ、主人公や登場人物の生き方を追体験したり、心情に共鳴したりすることで感性を揺さぶるひとときとなった。また、この読み聞かせの時間は、生徒が幼少期に満たされていなかった母性へのフラストレーションを補うための授乳的時間ともなり、深く精神世界に入り込む作品鑑賞の時間となった。それらの取り組みが、自身への探求に心のベクトルが向いて行ったに違いない。

5 今後の課題

次年度は、生徒達自身の「内なるファンタジー」に視点を持たせ、「創作絵本」の製作にチャレンジさせたいと考える。各々の作品を、グループワークで、そしてホームルーム全体で対話によるセッションを行い、その対話によって「気づき」を分かち合うような絵本探求授業を試みたいと考える。生徒達はおそらく、他者との「気づき」の違いに新たな視点の発見に面白味を感じてくれたり、意味や価値を見出してくれるのではないかと考える。

② 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

○読み聞かせ体験授業

1 目的・ねらい

本校の生徒には人間関係をうまく構築することが苦手な生徒が少なからずおり、その背景には、自己肯定感が低く自己を認識することや他者の心情を適切に推測することができないという特徴がある。読み聞かせの体験をすることは子どもの感受性を豊かにしたり、想像力を高めたりする効果があり、読み手から聞き手に対して好感情を伝達する良い手段であるともされている。

生徒たちは評論文や随想などよりも物語文を好み、積極的に取り組もうとする傾向が見られる。また、小学校・中学校時代に読み聞かせの授業を体験し、そのことを良い思い出として記憶しているものもいる。そこで「絵本の読み聞かせ」授業を受ける中で、生徒たちが絵本の世界を追体験して想像力を向上させ、他者の心情を適切に推測する能力を身につけること、それに加えて、穏やかな気持ちで自分自身を見つめる機会とすることによって自己肯定感を高めることをねらいとする。

2 内容

国語科の取組として夜間部生徒を対象に「絵本の読み聞かせ」授業を行った。講師（2名）は「とくしまお話を語る会」に依頼した。

3 取組

読み聞かせのアンケートを1番最初と最後の2回実施し、絵本の読み聞かせ授業を行ったことでの変化を調査した。

使用図書は次のとおりである。

第1回 11月14日 1限目 1・2年生

どんぐりころちゃん (わらべうた)	
1 富士山うたごよみ「立冬」	(短歌・文) 俵万智 (絵) U.G.ホー
2 だいくとおにろく	(再話) 松居直 (絵) 赤羽末吉
かきかきいくつ (わらべうた)	
3 きょうのごはん	(作) 加藤休ミ
4 ウェン王子と虎	(作・絵) チェン・ジヤンホン (訳) 平岡敦
5 ねんね (写真絵本)	(作・絵) さえぐさひろこ



第2, 3回 12月17日 1限目・2限目 全学年

たぬきさんたぬきさん (わらべうた)	
1 せんべせんべやけた	(案) こばやしえみこ (絵) ましませつこ
2 すてきな三にんぐみ	(作・絵) トミー・アンゲラー (訳) 今江祥智
3 女王さまのぼうし	(作) スティーブ・アントニー (訳) せなあいこ
4 あかちゃんてね	(作・絵) 星川ひろこ 星川治雄
5 しげちゃん	(作) 室井滋 (絵) 長谷川義史
1 ケーキになあれ!	(作) ふじもとのりこ
2 ぐりとぐらのおきやくさま	(作) 中川李枝子 (絵) 山脇百合子
3 こびとのくつや (グリム童話)	(画) バーナデット・ワッツ (訳) 佐々木田鶴子
4 雪の結晶 (しかけ絵本)	(文) ジェファー・プレストン・シュシュコフ (絵・しかけ) エフゲニア・イェリツカヤ
折り紙でクリスマスツリー作成 (工作)	



第4, 5回 1月11日 1限目・2限目 全学年

こすれこすれ (わらべうた)	
1 おしくら・まんじゅう	(作・絵) かがくいひろし
2 ねこのさら (らくごえほん)	(作・絵) 野村たかあき (監修) 柳家小三治
3 ふたりのあさごはん (ペープサート劇)	
4 トンちゃんってそういうネコ	(作・絵) MAYAMAXX
5 マルーシカと12の月	(作) かのゆうこ (絵) たなか鮎子
6 だるまさんが (大型絵本)	(作) かがくいひろし
読み聞かせ体験	



読み聞かせの授業 アンケート

()年 氏名()

それぞれの質問について、1～5の中から自分に当てはまるものを選び、回答らんに数字で答えてください。

	5	4	3	2	1	一回目	最後
読書について	読み聞かせの授業をおして本への興味が広がり、好きなジャンルだけでなくいろいろな本を読んでいる。	読み聞かせの授業を受け、マンガや絵本以外の本も読んでみたいと思うようになった。	読み聞かせの授業を受け、絵本に興味が出てきた。	機会があれば、絵本やマンガを読みたいと思う。	小説やエッセイ、絵本以外にマンガも読むことがない。	2. 3 1	2. 6 9
興味・関心について	読み聞かせの授業を楽しく受けられることができ、登場人物の気持ちに共感したり、自分の生活と結びつけて考えたりすることができた。	読み聞かせの授業を楽しく受けられることができ、好きな場面など自分なりの感想をもつことができた。	読み聞かせの授業を楽しく受けられることができた。	読み聞かせの授業をまあまあ楽しく受けられることができた。	読み聞かせの授業は退屈であった。	2. 6 9	3. 0 6
コミュニケーション能力について	聞いた話から感じたことを誰かに伝えることができる。	授業の間きちんと話を聞き、自分が楽しく聞いていることも態度で伝えることができた。(拍手を送る、おもしろい所では笑うなど)	授業の間、顔を上げて講師の先生の話がきちんと聞くことができた。	先生に起こされたり注意をされたりすれば、授業の間講師の先生の話聞くことができた。	授業の邪魔をしたり、または講師の先生の話聞いていなかったり寝てしまったりした。	2. 8 8	3. 0 6
授業への参加・積極性	自分から行動し積極的に活動(授業)に参加することができ、周りの生徒とも協力することができた。	自分から行動し、積極的に活動(授業)に参加することができた。	積極的にではないが、活動(授業)に参加することができた。	先生から促されたり話しかけられたりすれば活動(授業)に参加することができた。	ほとんど活動(授業)に参加をしなかった。	2. 8 8	3. 4 4

生徒の感想

中央高校で何度も読み聞かせをしてもらって、これで最後と思うととてもさみしいです。ずっとふれてなかった絵本の懐かしさやあたたかみを思い出させてくれ、毎回とても楽しい時間でした。

読み聞かせで聞いているだけの時よりも、自分たちで読んだときの方が主人公の視点に立ってストーリーを体感しやすく、世界に入っていくやすかったです。

楽しかったです。自分で絵本を読んだときは緊張したけれどがんばることができてよかったです。

普段は読むことのない絵本をたくさん聞けて、知れてよかったです。

絵本は自分的に文章が多いものより絵がお気に入りの本を見る方が楽しいと思った。

「いるの いないの」という怪談の絵本を読んで、絵本に怪談絵本というジャンルがあることを初めて知りました。絵本によって絵のタッチも異なりいろいろな本を知れてよかったです。

4 成果

初回の頃から絵本の読み聞かせの授業に介しておおむね好意的ではあるものの受動的でもあった。昔遊びや手遊び、一緒に歌を歌ったりといった場面では恥ずかしそうにしている者が多く見られた。ただ、回を重ねるごとに聞く態度に意欲が見られはじめ、読み手の呼びかけや同意を求められた際に応えたり、頷いたり、の反応があり講師先生にも喜ばれた。生徒の中には表情が柔らかくなっていった者もいた。また、明日は読み聞かせの授業があると生徒に伝えると喜ぶ姿もあり、楽しみにしているのだと感じさせられた。

読み手が聞き手の表情を見ながら、気持ちを考えながら話す言葉には、大きな力がある。上手く読めるようになれば自尊心が生まれ、それを聞いている方には読んでくれている人へ信頼が生まれる。読み手と聞き手の絆をつくる良い機会になったと捉えている。このことについて、ある先生からは「君たちも近い将来、親となる。子どもを寝かしつける際に絵本の読み聞かせを是非してほしい。そのときに臨場感を持たせるとか、声色を変えるとか、絵を見て感想を訊くなど、今回学んだことを活かしてほしい。」と伝え、当時ニュースになった虐待事件を引き合いに出し「家庭とは」「親子の絆とは」「コミュニケーションとは」「読み聞かせで生まれる安心感や信頼について」の話をしたとき生徒は神妙な顔つきで聞いていた。

読み聞かせの授業後の光景では、読み聞かせをしてもらった絵本について、生徒間で会話の端にのぼることがあった。絵本の世界に対する感想や感動を自分の中で持つことが出来ているのは、国語教育の観点からも喜ばしいことだと感じた。また、生徒自身の将来像と重ねて、絵本の読み聞かせを仕事に必要なスキルと認識しながら聞いている生徒もいたことやアンケートの結果から、自分自身を見つめる機会としては一定の効果があったと思われた。

最終回となった1月には学校全体の行事として授業を行った。この日は、講師の方の読み聞かせに加え、2名の生徒に全体の前で読み聞かせをする体験をしてもらった。読み聞かせ体験をした生徒らは上手に役割をこなし、終わったときには拍手と賛辞を受け、照れくさそうにしていたが、自己有用感を持った瞬間と見受けられた。その後絵本選びと読み聞かせ実習を行ったのだが、概ね生徒主体でそれぞれをこなすことができ、読み方にも工夫をこらそうといった意欲が見て取れたので、積極性と表現力の向上が感じられた。また、聞く側の生徒達もそれまでの授業と比べしっかりと前を向いて耳を傾けていたため、こちらに関しても積極性の向上が感じられた。

5 今後の課題

本年度「絵本の読み聞かせ」授業を実施し、生徒たちの成長を目のあたりにした。この取組を継続することで生徒たちの更なる成長につなげたい。そのため、生徒に自ら絵本を選ぶ機会を設け、積極的に参加しているという意識を持たせたい。そして生徒自身が絵本を読む時間を増やすことも検討したい。

③ 富岡東高等学校定時制課程

○購入図書について

1 目的・ねらい

本校定時制には、ソーシャルスキルが不足していることが一つの原因となり、他校から転編入や再受検した生徒や、中学時代にいじめ等にあい長期欠席していた生徒がおり、学力にも生活面にも不安を持つ者が多い。

さらに、本課程から大学や専門学校等の上級学校へ進学する生徒はまれであり、生徒は上級生が大学へ進学するの見聞きした例が非常に少ない。

このようなことから、大学のAO入試や推薦入試に関する図書を購入し、対象生徒に対する対応に活用する。生徒が進学準備をし入試を受験することで、様々な成功体験を重ねることがある。それらを通じて、ソーシャルスキルの向上を図る。

2 内容

次の図書を購入した。

大学入試AO・推薦入試をひとつひとつわかりやすく (G a k k e n)

3 取組

本年度は、一人の生徒が、短期大学のAO入試を受験し、進学することとなった。その準備に際して、購入図書を利用して、生徒の受験指導にあたった。

4 成果

上級生が大学や専門学校等の上級学校へ進学するのを見聞するのが少ないという環境の中、購入図書の利用もあり、短期大学のAO入試に合格することができた。

5 今後の課題

今回の購入図書を利用して、大学進学時の直接的かつ具体的な対策に当たることができた。しなしながら、生徒ひとり一人の基本的資質に関して、ソーシャルスキルが不足している、自己肯定感や自己有用感が低い、学力が弱いなど、高校卒業後の進路を考えるにあたり、一人の生徒が複数の問題を抱えている場合が多く、さまざまな支援を複合的に継続していかなければならない。

④ 鳴門高等学校定時制課程

○ヨガ教室について

1 目的・ねらい

深い呼吸法や正しい姿勢を学ぶことで、精神の安定を図り、よりよい社会生活への態度を育成するための講習会を7回開催する。

2 内容

ヨガインストラクターの方を招き、心身の健康を理解し実践することを目指し、ヨガ体験を実施する。正しい呼吸法や姿勢、様々なポーズにも挑戦し、心と体のつながりを実感し、心身の緊張をほぐし、心の安定や安らぎを得る。

3 取り組み

ヨガインストラクターの方の指導の下、腹式呼吸や姿勢づくりを通して心身の健康に寄与する。自分の体を思うように動かすことと、そのズレ（客観的に見るとそうっていないこと）に気づき、補正していくことでバランスのとれた心と体のつながりを実感し、心身の緊張をほぐし、心の安定や安らぎを得る。今年度は受講生徒が全員女子であるという点を考慮して、女性が興味関心を持ちやすい「美」をテーマに、美容や健康に効果のある内容を重点的に指導してもらった。プロの「技」を実際に見て、学び、実践させ、よりよい社会生活への態度を育成する。

4 成果

全員が初めてヨガを体験することもあり、興味と不安を併せ持っていたが、講師の方の的確なアドバイスや声かけにより、前向きに取り組めるようになった。正しい姿勢や呼吸法を行うと、普段の生活では使わない筋肉を使っているということを実感することができていた。また、回数を重ねるうちに、次第にポーズがうまくなってきた。体を動かす楽しさや、呼吸法の重要さを全身で感じることができ、心と体のつながりを学ぶことができた。

5 今後の課題

ヨガを指導する際は、非常に専門的な知識や技術が必要であり、講師不在時の授業展開や指導に難しさを感じた。動画や市販DVDなどを適宜取り入れていくことはもちろんであるが、担当教員の知識や技術向上も必要であると考えた。

平成30年度 総合的な学習の時間 外部講師 来校表

ヨガ教室…講師 yoga feel 吉田 有美 さん

平成30年

- 6月14日(木) (ヨガとは, 姿勢, 呼吸法)
- 6月28日(木) (ウエスト, 腹筋群に効くヨガポーズ)
- 9月27日(木) (背中, 二の腕に効くヨガポーズ)
- 10月11日(木) (美脚, 下半身に効くヨガポーズ)
- 10月25日(木) (小顔, 美肌, ホルモン系に効くヨガポーズ)
- 11月 8日(木) (美姿勢, 猫背解消に効くヨガポーズ)
- 11月25日(木) (太陽礼拝とリラクゼーションポーズ)



○ウエイト・トレーニング教室について

1 目的・ねらい

筋力を上げることにより, 体力の向上を図り, よりよい社会生活への態度を育成するための講習会を7回開催する。

2 内容

パーソナルトレーナーの方を招き、ウエイト・トレーニングを通して心身の健康の保持増進を目指す。正しい方法でそれぞれの部位に負荷をかけ、筋力向上につなげる。また、変化のわかりやすい大きな筋肉のある部位を重点的にトレーニングすることにより、自らの身体の変化を実感する。そのことにより自信を深め、明日への活力となることを期待する。

3 取り組み

パーソナルトレーナーの方の指導の下、ウエイト・トレーニングの種類、正しい方法について学ぶ。前半は、トレーニング自体を理解することに重点を置き、正しい方法や動きを身につけることに時間をかける。後半は、前半で学んだ知識を実践するため、各自、鍛えたい部位に応じたトレーニングを選択し、体力向上を目指す。プロの「技」を実際に見て、学び、実践させ、よりよい社会生活への態度を育成する。

4 成果

パーソナルトレーナーをしている講師の方から、ウエイト・トレーニングの種類、正しい方法や知識を直接教えていただいた。闇雲に負荷をかけ、回数をこなすような従前のやり方ではなく、適切な負荷をかけると同時に、呼吸やリズム、ペースなどを重視しながら実践することが長続きのコツだということを知った。生徒の中には、自身の身体の変化を感じることができた者もあり、やれば必ず成果が出るということを知ることができた。毎時間意欲的に取り組むことができていた。

5 今後の課題

週に一度だけの取り組みでは、目に見えた変化を感じられない生徒もあり、ウエイト・トレーニングで使用した機械を用いなくてもできる、日常生活におけるトレーニング方法や食事法などの指導もできればよかったと感じた。

平成30年度 総合的な学習の時間 外部講師 来校表

ウエイト・トレーニング教室…講師 パーソナルトレーナー 増原 直行 さん

平成30年

6月14日(木)	(上肢のトレーニング①)	ベンチプレス)
6月28日(木)	(下肢のトレーニング①)	ハーフスクワット)
9月27日(木)	(上肢のトレーニング②)	ベンチプレスMAX測定プッシュアップ)
10月11日(木)	(上肢のトレーニング③)	懸垂・ベントオーバーローイング)
10月25日(木)	(下肢のトレーニング②)	フルスクワット)
11月8日(木)	(上肢のトレーニング④)	ベンチプレス・ダンベルベンチプレス)
11月25日(木)	(上肢のトレーニング⑤)	懸垂・デッドリフト)



○ギター教室について

1 目的・ねらい

楽器演奏を通して、音感・リズム感・協調性を養い、よりよい社会生活への態度を育成するための講習会を7回開催する。

2 内容

四国大学短期大学部音楽科助手の方を招き、ギター演奏を通して新たな自己表現の方法を見出すと同時に、音感・リズム感・協調性を養う。演奏することの楽しさを体験することを通して、音楽やギターに関する興味関心を養い、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性が豊かになることを期待する。

3 取り組み

四国大学短期大学部音楽科助手の方の指導の下、ギターの各部の名称やチューニングの仕方、単音で「ドレミファソラシド」を弾くことから開始する。次に、コード（和音）やアルペジオ、ストロークなどの奏法の練習をし、徐々に曲を演奏する知識や技能を身につける。また、プロのアーティストとしても活動されている講師の方による生演奏を鑑賞し、様々な音響機材を用いた本格的なレッスンを受ける。プロの「技」を実際に見て、学び、実践させ、よりよい社会生活への態度を育成する。

4 成果

大半の生徒がギターに触ったこともないような状況でスタートしたが、現在では多くの生徒が楽曲のテンポを遅らせることで演奏できるようになり、上達する喜びを感じている。講師の方から演奏の知識や技術を教わっただけでなく、それぞれのコードの持つ響きを、生徒が連想しやすい情景などで説明し、イメージさせてみるなどの貴重な表現活動ができた。音楽の持つ奥深さや表現することの豊かさと楽しさを、ギターを通して味わうことができた。

5 今後の課題

生徒の中には、コードを押さえたり覚えることが困難な者もあり、そのまま無理に教え込まずに、簡略化するなどして対応していくことも必要だと感じている。また、技術面の指導に終始するだけでなく、ギターで情緒豊かに表現することも伝えたいと感じた。

平成30年度 総合的な学習の時間 外部講師 来校表

ギター教室…講師 四国大学音楽科助手 楠本 宏志 さん

平成30年

- 6月14日（木）（講師紹介、Em・Am・Cコード練習）
- 6月28日（木）（講師によるギター演奏の鑑賞、
Em・Am・C・D・Gコード練習）
- 9月27日（木）（『Stand by me』コード練習）
- 10月11日（木）（『Stand by me』ギター演奏練習）
- 10月25日（木）（『Secret base～君がくれたもの～』
『ヒカリへ』ギター演奏練習）
- 11月 8日（木）（『ヒカリへ』『チェリー』ギター演奏練習）
- 11月25日（木）（『ヒカリへ』『チェリー』ギター演奏練習、
A～Gのコードの特徴紹介）



○プログラミング教室について

1 目的・ねらい

指示と動作の関連性を理解し、筋道を立てて物事を考える力を養い、よりよい社会生活への態度を育成するための講習会を7回開催する。

2 内容

プログラミングスクールの講師の方を招き、プログラミング未経験者を対象に、プログラミング言語Scratchを導入することで、生徒にとって興味が持ちやすく、理解しやすい内容のものを学ぶこととする。プログラムの基本的な構造に始まり、繰り返し処理や条件分岐、変数、クローン等の新しい事項を徐々に取り入れ、それを用いた簡単なゲームの作り方を学習する。

3 取り組み

プログラミングスクールの講師の方の指導の下、プログラミング言語Scratchを用い、命令が割り当てられたブロックを組んで、サンプルプログラムを構築する。さらにできあがったプログラムを改変して動作を確認する。思い通りに動かない場合はサポートをしながら、簡単な練習問題に取り組み、知識の活用と定着を図った。プロの「技」を実際に見て、学び、実践させ、よりよい社会生活への態度を育成する。

4 成果

講師の方の詳しく丁寧な説明を聞くことができ、プログラムが思い通りに動かない（バグがあった）場合も修正することができた。また、講師の方の説明は、初めて学ぶ生徒達に対してよく配慮されており、わかりやすいと好評であった。5人中4人の生徒が、アンケートに、今後何かゲームを作りたいと回答した。

5 今後の課題

プログラミングに欠かすことのできない変数、条件分岐等の演習が時間不足となり、自力でゲームを作るまでには至らなかった。一からゲームを作るのではなく、サンプルプログラムを改良するなどの演習を繰り返しながら、さらにスキルを向上させていく必要があると感じた。

平成30年度 総合的な学習の時間 外部講師 来校表

プログラミング教室…講師 クリッププログラミングスクール 江本 大輔 さん

平成30年

- 6月14日（木）（講師紹介、プログラミング言語Scratchの操作方法）
- 6月28日（木）（プログラムの仕組みを知ろう 追いかっこゲーム）
- 9月27日（木）（乱数について もぐらたたきゲーム）
- 10月11日（木）（変数について① 計算ゲーム）
- 10月25日（木）（変数について② サッカーゲーム）
- 11月 8日（木）（クローンについて 弾幕シューティングゲームの製作）
- 11月25日（木）（クローンについて 前回の続き）



⑤ 池田高等学校定時制課程

○地域や人と関わる活動・アクティブラーニング等について

1 目的・ねらい

地域の方々との関わりや協働的な活動により問題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、自尊感情の醸成や健康で安定した身の維持を目指す。

2 内容

校内の活動では探究活動の発表準備や文化祭のパフォーマンスの練習、通常の授業でも協働的な活動等を意識的に取り入れる。校外においては地域貢献活動、保育実習等の交流活動を実施することで、対人関係を円滑に運ぶためのスキルの向上を図る。また、音楽に関する活動や体力増進講座等を通して、自分と向き合わせ豊かで強い心身や自尊感情の醸成に繋げる。

3 取り組み

- ◇協働的な活動（文化祭パフォーマンス、地域を知る学習発表会、ホームルーム活動）
- ◇保育実習（読み聞かせ講習）、ボランティア体験イベント参加
地域活動〔池定・地域まもり隊〕（地域の清掃・しめ縄作り・防犯パトロール・被災地支援）等
- ◇芸術・音楽に関する活動及び体力増進（近隣施設での美術作品展示・体力増進講座、スクールソングプロジェクト）等

4 成果

文化祭や発表会では協力や相談が必要な場面を多く提供できた。ホームルーム活動は全学年合同で学年混合のグループを設定し、様々な意見をまとめたり共感する中でコミュニケーション能力等の育成を図ることができた。

本年度「池定・地域まもり隊」は、「ボランティアスピリットアワード」（西日本地区）や「まなぼうさい活動賞」（県知事表彰）などを受賞し、外部から評価を得たことで生徒の自信や達成感に繋がったと考える。

体力増進講座の実施後アンケートでは「体力増進の機会になった」：100%、「運動の大切さが理解できた」：94%であり、感想では「自分の体調や体力に日頃からもう少し気をつけて何かを始めたい」などの前向きな意見が見られた。

※学校評価アンケート結果

質問【学校行事に積極的に参加できましたか。】	肯定的評価%→	H30	H29	H28	H27
① 遠足		89	89	83	88
② 学燈祭（文化祭）		79	79	79	83
③ 校内球技大会		100	95	78	92
④ 定通連美術作品展作品制作		100	84	67	88
⑤ 「池定・地域まもり隊」の防犯パトロールや地域での清掃活動		95	84	61	79
⑥ 「地域を知る学習」		95	79	78	75
⑦ 「被災地支援活動」（マープリングうちわの作成）		95	74	67	83

5 今後の課題

高校生活についてのアンケート「学校の中で皆の役に立っているか」「自分のことが好きか」に対して肯定的評価は 37%と 32%であり、昨年度より少し増加したが、依然として低い。活動を拡充することは難しいので、振り返りとフィードバックの方法を工夫して前向きな自己認知を促す必要がある。

3) 学力向上支援

① 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

○多くの人の関わりにより学習機会を増やす夜間部の学力向上支援

1 目的・ねらい

夜間部の学力向上支援のねらいは、大きく三つに分けることができる。一つは基礎学力の向上を目指すことである。高等学校の学習内容の理解に必要な学力の定着を図るとともに、一般常識や人間関係を築く力等の社会生活をしていくために必要な力を養い、自ら学ぶ態度を育てることを目標とする。

二つ目は義務教育段階の学習内容の再学習を行うことである。様々な原因により小・中学校での学習内容を身に付けることができている生徒に対し、高等学校の学習内容の理解に必要な基礎学力の学習と並行して行う。

三つ目は教員以外の大人と学習する機会を設けることでコミュニケーションや交流を通して、信頼が生まれ、悩み相談や進路相談につなげていく。また自分の将来像を考える契機にもなり、学習意欲や勉強に向かう意識向上を図ることに結びつける。

2 内容

義務教育段階の国・数を中心にして学び直しを行う学校設定教科「マルチ基礎」、社会人・職業人としての基礎を学ぶ学校設定教科「職業」および放課後や長期休暇中の課外時間における自主学習時間「ハッピータイム」において、一人一人の生徒の実態に応じた支援を継続して行っている。特に「マルチ基礎」および「総合的な学習の時間」の授業では夜間部の教員に加えて鳴門教育大学大学院生（臨床心理士養成コース）や支援相談員が、一人一人の生徒に寄り添う形での学習支援を行っている。

3 取組

学校設定教科「マルチ基礎」は、週1時間（1単位）の科目として1～3年次の生徒を対象にホームルーム主体の授業となっている。各ホームルーム生徒2、3名に対して1名の指導者が教室において学習指導を行っている。各ホームルームとも多様な生徒がいるため、マンツーマンで学習指導をしなければならない場合もあれば、1名の指導者が2～3名の指導を行う場合もある。学習指導で注意していることは、できないことの再確認にならないよう、自分で「できること」の実感と「教えてもらってできるようになること」の達成感を各生徒に経験してもらうことを目指している。さらに、小・中学校での学習時に理解できなかったことに対しては、異なるアプローチにより理解を目指すよう工夫している。

学校設定教科「職業」は、1年次に「職業基礎A」（1単位）、2年次に「職業基礎B」（1単位）を学習している。2年間の学習により社会人・職業人としての基礎を身に付けられるよう指導している。上の「マルチ基礎」と同様に各ホームルームとも2名以上の指導者が関わるようにしている。「職業基礎A」および「職業基礎B」の学習生

徒全員が「夜間部カフェ」の日替わり当番を行っており、そこでは多くの教員や生徒とコミュニケーションを図ることで社会生活を営む力を培っている。

自主学習時間「ハッピータイム」は全員の生徒に呼びかけ、自らの目標に向かい、自ら学ぶ態度を育むことを目指している。「ハッピータイム」での学ぶ内容や方法は多様であり、生徒の実態に合わせて適切に教員が対応するようにしている。

4 成果

「マルチ基礎」や「職業」の授業での学習支援を行うのは、担任・副担任だけでなく、比較的年齢に近い大学院生がいるため明るい雰囲気での授業を進めることができる。マンツーマンに近い形で指導できるので、わからないものをわからないと言え、生徒は学び直しをスムーズにかつ効果的に行うことができている。また、教員、支援相談員および大学院生とのコミュニケーションにより、基礎学力の向上だけでなく、社会人として必要な力を養うきっかけとなっている。

さらに、国語・数学の授業との連携により、生徒の学習意欲の向上および基礎学力の向上が実感できる。

5 今後の課題

夜間部の学力向上支援の課題の一つは、夜間部における学力とは何かをさらに分かりやすく明確にし、すべての指導者で共有することである。また、生徒の学力向上を目的として設定している学校設定教科とその他の教科とのさらなる連携により、夜間部の生徒にぜひ身に付けてほしい学習内容を確実に定着させることができるようにしたいと考えている。

② 徳島中央高等学校通信制課程

○多様な学習形態の提供による学習支援

1 目的・ねらい

徳島中央高等学校通信制課程には、中学校卒業後すぐ入学してくる者、中学校卒業から数年経過して入学してくる者、他の高等学校から転編入学してくる者と本校入学までに様々な経歴を持つ生徒が在籍している。また、高校卒業の資格を取得するため、生涯学習を志すため、他の定時制課程に在籍する生徒が3年間で高校を卒業するため、不足単位を定通併修により本課程で取得するためと、在籍生徒の新・転編入学目的は多種多様である。さらに、過去、いじめ、不登校、問題行動を経験した者、発達障害などにより特別な支援を必要とする者、そして、全日制課程や定時制課程の高校では学ぶことが困難であるという理由で新・転編入学してくる生徒が多数を占めているため、多様な生徒が学べる教育環境の整備が必要となっている。特に、近年、発達障害のある生徒や不登校を経験した生徒等、何らかの支援が必要な生徒が数多く在籍するようになってきて

いる。中には、小学校高学年から中学校までほとんど学校に登校できていない生徒も見られる。

そのため、最近の5年間では毎年80～100名が入学するものの、卒業生は毎年36～44名に留まっている。また、今年度は、在籍生徒の約42%が5年以上本課程に在籍している。仕事との両立で学習時間が確保できない、不登校傾向があり学校に足が向かない等、理由は様々であるが、これらの生徒は卒業に向け、自分のペースで学業に励んでいる。

このような中で、一人でも多くの生徒が卒業できるよう、つぎのような取組を行っている。

2 内容

本校通信制課程では、多様な生徒が学びやすい教育環境を構築するため、つぎのような学習形態を提供し、実践を行っている。

- ① 義務教育内容を学び直す学校設定科目（ベーシック国語・数学・英語）の開設
- ② 学生ボランティア（徳島大学生）による個別指導
- ③ NHK高校講座の活用促進（レポートに放送内容の取り入れ、面接指導の代替）
- ④ 学習支援制度による個別指導
- ⑤ 県南部、県西部、県北部の3地区での出張スクーリング
- ⑥ 昨年度から2学期制を導入し、前期または後期で履修を完了する科目の設置

3 取組

① ベーシック科目について

平成26年度より英数国の3教科において、中学校時代の学び直しのための学校設定科目を開設した。義務教育段階の内容が学習でき、年12回の面接指導と年6回のレポート提出により履修修得条件を満たせば2単位が修得できる。

② 学生ボランティアによる個別指導について

特別な支援を必要とする生徒への学習支援として、希望する生徒に対して、学生ボランティアによる学習支援を行った。

③ NHK高校講座の活用促進について

レポート課題の一部にNHK高校講座の放送内容と関連したものを取り入れたり、面接指導時において、NHK高校講座の紹介をしたりすることにより放送視聴の促進を図った。

④ 学習支援制度について

生徒への案内物、クラスや科目担任による広報を、年度当初より積極的に行い、活用を促した。毎週月曜日に学習支援日を設定し、原則として、事前申込（予約）を必要とされていたが、生徒の利便性を考慮し、教員側で都合さえつければ、月曜日以外でも、事前申込（予約）なしでも利用できるようにした。

⑤ 出張スクーリングについて

県南部、県西部、県北部の遠隔地に居住する生徒で、近隣地での面接指導を希望する場合、希望する科目について、それぞれの会場へ出張し、特別に支援を行った。

⑥ 2学期制半期単位認定について

1年間通して学習活動が困難な生徒のために、半期（前期または後期）で単位を認定する科目を設置した。

4 成果

① ベーシック科目について

ベーシック科目は、義務教育での学習内容を確認かつ復習することと高等学校で本格的に学習するための準備と練習を行うことを目的として開設した科目である。履修生徒は、基礎基本を確認するとともに自らの実態を知ることができ、学習を進めていくことができた。分かる喜びは生徒自身の学習意欲向上と自己肯定感につながり、開設効果は非常に大きかったと思われる。

② 学生ボランティアによる個別指導について

大学生によるピアカウンセリング的なコミュニケーションと細やかな学習指導を行った。少しずつではあるが、生徒自身の対人関係を始めとするソーシャルスキルの向上と苦手科目克服ができた。

③ NHK高校講座の活用促進について

レポート添付のアンケート及び視聴報告提出生徒数から算出した視聴人数はのべ31名327科目であった。今年度は、スクーリングへの出席率が昨年度に比べて、10%上昇しており、その分、NHK高校講座利用生徒数は減少したが、この制度は生徒に浸透かつ定着してきたものと思われる。

④ 学習支援制度について

学習支援制度を活用した生徒は延べ275名であった。昨年度は、前年度より約90名の大幅な増加となり、今年度は、昨年度よりさらに20名増加した。この制度は、レポート作成や生徒自身の学力向上に有効であるという認識が、活用した生徒に浸透してきた結果であり、生徒の学習意欲喚起に効果を上げる取組であったと思われる。

⑤ 出張スクーリングについて

本課程は県下唯一の公立通信制課程の高等学校であり、規定された面接指導を受けるために片道50Km以上の距離を通学する生徒もいる。県南部、県西部、県北部の3ヶ所で前後期各2回ずつ計6回の面接指導を行い、遠隔地から通学してくる生徒たちに対して、通学の負担を軽くすることができた。また、出張スクーリングは、個別指導に重点をおいた面接指導を行っており、より効果的な個別指導もできた。本校以外の場所にこのような面接指導の場を設けることは、不登校傾向の生徒にとって、スクーリング出席のきっかけにもなり、正規のスクーリング出席（登校）につながるといった相乗効果もあった。

⑥ 2学期制半期単位認定について

半期での学習活動を成果として認めることにより、卒業に対するモチベーションが維持でき、意欲的に学習に取り組む姿勢が身についたと思われる。また、昨年度から前期末での卒業制度を導入し、今年度は、前期末卒業該当者はいなかったが、昨年度は、2名が前期末（9月末）で卒業した。さらに、今年度は後期転編入学制

度を導入し、3名が後期転入学を果たした。うち、1名は今年度末で卒業する見込みである。

5 今後の課題

① ベーシック科目について

この科目は、主として新入学生徒を対象に設定された選択科目であり、現在は本人の希望により履修させている。入学にあたり、各教科の学力審査を実施していない本課程では、生徒の学力面の実態が把握しきれず、本来、履修が望ましいと思われる生徒が履修せずにいることがあり、このような生徒の履修率向上と単位修得率向上が今後の課題である。

② 学生ボランティアによる個別指導について

この制度は、引っ込み思案で質問ができない生徒や不登校などにより勉強の仕方がわからず、学習習慣が身につけていない生徒にとっては、有効な支援方法であると思われる。また、コミュニケーション面で自信がない生徒にとっては、学習支援以外の面で、ソーシャルスキルを向上させるきっかけにもつながる。ぜひ、来年度以降も継続していきたいと考えるが、後期からの実施となるため、科目によっては利用できないことがあり、前期にも同様の支援ができるような方策を検討することが今後の課題である。

③ NHK高校講座の活用促進について

レポート課題の中にNHK高校講座の放送内容と関連したものを取り入れることが困難であったり、講座放送日時と課題作成時期がズレたりする科目がある。しかし、Eテレビ等で興味深い番組も数多く放送されており、レポートや面接指導をきっかけに、こうした放送を観たという生徒も少なからず存在し、多様な学習機会の提供には有効な取組であると思われる。ぜひ、来年度以降も継続していきたいと考えるが、講座内容の一部でも面接指導の中で紹介するなど、活用促進の方法を検討していきたい。

④ 学習支援制度について

活用した生徒は確実にレポート作成に成果が現れ、学習意欲向上にもつながっている。一方、まだ活用したことがない生徒も数多く存在し、このような生徒に対して、活用を働きかけ、利用者数を増やすことが、今後の課題であると思われる。あらゆる機会を通して、活用を促す働きかけをしていきたい。

⑤ 出張スクーリングについて

県下各地の遠隔地より通学する生徒は減少傾向にあり、このような事情で本制度を活用する生徒は減ってきた。しかし、不登校生徒が活用する事例は今後ますます増加することが予想される。実施場所や実施方法等を工夫し、利用生徒にとって、学習効果があがるような方策を検討していきたい。

⑥ 2学期制半期単位認定について

昨年度新たに、半期で無理なく目標が達成できるよう、半期単位認定科目を設定し、2年かけて、前期末卒業制度や後期転編入学制度を整備したが、今後、生徒の履修状況を検証し、この制度をさらに改善していきたい。

③ 徳島科学技術高等学校定時制課程

○学力向上教室における参考図書の活用について

1 目的・ねらい

社会人として必要な基礎学力定着に向けて、始業前や放課後に生徒の要望に応じて補習を行う。補習実施に必要な参考図書を購入し、これを用いて指導することで学習効果を高める。

2 内容

基礎学力向上の補習用として、2冊の図書を購入した。補習希望生徒の要望に応じて、1年次3名が英語の中学校段階の学習、2年次1名が工業専門学校への進学受験資格を得るため工業英語検定4級取得の学習を行った。

3 取組

学力向上担当教員や有志の教員の協力を得て実施した。1年次は、始業前または放課後に週1回40分程度、2年次は、週4回程度それぞれ指導を行った。

4 成果

最も学力向上効果の高い個別指導で行った。受講生徒は、日々着実に学力が向上している実感が持てたことで、継続した学習ができた。また、生徒と教員の信頼関係の構築にも寄与できた。

5 今後の課題

全日制高校への再受験を希望している生徒、数学・理科の学力向上補習を希望している生徒、外国籍で日本語勉強を希望している生徒、進学の入試対策補習を希望している生徒など、多様な学習ニーズに対応して補習を実践する教員の協力体制づくりが、課題といえる。

また、学力向上補習への参加を生徒に呼び掛けても、参加希望する生徒は一部である。基礎学力が不足している生徒に対して、学習意欲を起こさせるような粘り強い声かけ指導も課題である。

④ 富岡東高等学校定時制課程

○購入図書について

1 目的・ねらい

本校定時制には、特別な支援を必要とする生徒、自己有用感や自己肯定感を持ってない

生徒等が少なからず在籍する。その対策として、様々な資格や検定を取得させることで自信を持たせ、さらには、それぞれの進学や就職に生かすことができる。これら対策のため、以下の図書購入を計画した。

2 内容

次の7冊の図書を購入した。

- 1) ひとりで学べる調理師試験 2018年版 (ナツメ社)
- 2) 2018年版 基礎から最新問題までよくわかる乙4類危険物取扱者受験教科書 (向学院)
- 3) 2017-2018年対応 短期完成 英検準2級3回過去問集 (旺文社)
- 4) 2017-2018年対応 短期完成 英検 3級3回過去問集 (旺文社)
- 5) 2017-2018年対応 短期完成 英検 4級3回過去問集 (旺文社)
- 6) 2017-2018年対応 短期完成 英検 5級3回過去問集 (旺文社)
- 7) 英検準2級 二次試験・面接 完全予想問題 (旺文社)

3 取組

購入した図書に関する資格や検定の受験を、関連する教科・科目の授業や、進路関係ホームルーム活動や、個人面談などを通して促した。

4 成果

「乙4類危険物取扱者」を4年生の生徒一人が受験している。夏の1回目の試験は不合格になった。2月に今年度の2回目があり、受験予定である。

5 今後の課題

資格や検定に取り組むことで学力が向上するとともに、進学や就職に有効であるという直接的な実利に関することを生徒に伝え受験刺激をするとともに、受験者数が少ないのは、学力に対する不安や自己肯定感が低いことなどが原因として考えられることから、それらを向上させる支援も受験刺激と同時に必要である。

⑤ 名西高等学校定時制課程

○資格取得に向けた図書の購入について

1 目的・ねらい

本校の生徒は、小中学校時代において何らかの理由で不登校を経験したものが少なからずいる。そのため、真面目であるが基礎学力が不足していることが多く、自己肯定感も低い。資格取得を目指すことで学習意欲を向上させ、学力向上につなげていく。

2 内容

高校生が取得できる資格としては、日本漢字能力検定、実用英語技能検定、危険物取扱者などがあるが、一番身近で取り組みやすい日本漢字能力検定の資格を取得させることとした。検定は級別にわかれているので、そのための学習教材図書を購入し授業等で活用する。

3 取組

受検希望者は、1年に3回（7月・11月・1月）、本校で全日制の生徒とともに希望する級を受検する。その対策として授業や放課後、休日等に購入した図書を活用して問題演習をおこなう。

4 成果

今年度、第1回と第2回の合格者数は3級0名（受検者3名）、準2級1名（2名）、2級1名（1名）であった。第3回では3級に2名が受検し、結果待ちである。

5 今後の課題

希望者のみの受検のため、のべ8名にとどまった。今後は受検者数の増加に向けて、生徒への呼びかけ、国語などの授業での取扱い、受検料の補助などを検討していく。

漢字検定はさまざまな級があるが、就職や進学の際に提出する調査書に記載できる級となると、生徒の実態に合わないことがあり、受検を躊躇する一因ともなっている。

⑥ 池田高等学校定時制課程

○授業改善・学力向上講座等について

1 目的・ねらい

I C T機器の活用や授業改善に関する研修等によって教員の授業力向上を図るとともに、少人数の強みを生かした授業を実践することで、生徒の基礎学力の定着や学習に対する意欲や態度の向上に繋げる。

2 内容

I C T機器やシンキングツールを活用した授業に関する校内教職員研修や授業参観週間を設けて授業改善に繋げた。漢字能力向上講座、計算能力向上講座では生徒の状況に応じてレベルを段階的に設定して実施した。毎日15分の読書の時間を設けた。

3 取り組み

授業力向上（I C T機器活用講座、シンキングツール活用講座、相互参観、研究授業）
学力向上講座（漢字能力、計算能力）、読書の時間

4 成果

本校では全教室に電子黒板が設置されているが、年度の早い時期にICT活用講座を実施したことで新しく赴任した教員も積極的にICTを活用できている。(本年度電子黒板活用率：63%) また、他の教員の授業の見学やシンキングツールに関する研修により授業の組み立ての幅が広がった。ICT活用授業には生徒の多くが好意的で、授業に取り組む姿勢も向上した。

学力向上講座では、漢字・計算テストを年4回実施した。読書に関するアンケート結果では今年度読んだ本の冊数(10冊以上：16%、5-9冊：37%、2-4冊：37%、1冊以下：11%)で昨年度より向上した。

※学校評価アンケート結果

質 問	肯定的評価%→	H30	H29	H28	H27
【生徒】授業はよくわかりますか。		74	74	83	63
【生徒】授業を真剣に受けていますか。		89	79	56	67
【生徒】授業に満足していますか。		84	74	89	71
【生徒】学校は生徒の学力向上に向けて積極的に取り組んでいますか。		95	89	78	79
【生徒】校内計算テスト・漢字テストには熱心に取り組めましたか。		89	58	56	58
【生徒】「読書の時間」に満足していますか。		89	84	83	71
【生徒】定時制読書室の本棚にある本には満足していますか。		68	79	79	67

5 今後の課題

学力の基礎・基本の定着は、社会生活に必要不可欠であり、今後も個々の能力や目標に応じた学習課題の設定等、きめ細やかな指導が重要である。社会で求められる学力の育成を目指して、協働的・体験的な学習、探求的な学習、言語活動の充実等を意識した授業改善が必要である。

4) 特別な支援を必要とする生徒への指導

① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

○ケース会議について

1 目的・ねらい

特別な支援を必要とする生徒を対象とし、特別支援学校に教育相談等を依頼し、巡回相談員に授業を見学してもらい、授業や生徒に関して適切な支援や指導法などを助言してもらい、授業や指導方法の改善、生徒理解を目的とする。

2 内容

対象生徒	ソーシャルスキルトレーニングA (午前)	2年次生	3名
	ソーシャルスキルトレーニングA (午後)	2年次生	2名
	ソーシャルスキルトレーニングC (午後)	2年次生	4名
	キャリアアップトレーニングA (午前)	3年次生	1名

3 取組

それぞれの授業を1時間見学してもらい、その後協議の時間を1時間程度設ける。そして、巡回相談員から指導・助言をいただき、それらをもとに授業改善を図る。

また、本校は「ともにまなぶ」高校生活応援事業をうけており、それに伴う特別支援教育支援員研修において、みなと高等学園の巡回相談員の方を派遣してもらい、生徒の支援に関する協議を行った。それとは別に鳴門教育大学附属特別支援学校に教育相談を依頼し、月1回程度巡回相談員を派遣してもらった。

6月26日 (火)	【授業見学】	ライフスキルトレーニングA (午後)	上手なお願いの仕方
	【授業見学】	ライフスキルトレーニングC (午後)	「とくしま中央一座においての人形劇」
	【協議】	みなと高等学園 巡回相談員2名	
9月14日 (金)	【授業見学】	ライフスキルトレーニングA (午後)	「私の四面鏡」
	【協議】	鳴門教育大学附属特別支援学校 巡回相談員1名	
10月19日 (金)	【授業見学】	ライフスキルトレーニングA (午後)	「すてきな断り方」
	【協議】	鳴門教育大学附属特別支援学校 巡回相談員1名	
10月26日 (金)	【授業見学】	ライフスキルトレーニングA (午前)	「デジタル紙芝居」
11月 1日 (木)	【協議】	みなと高等学園 巡回相談員2名	

- 1 1月27日（火）【授業見学】 ライフスキルトレーニングA（午後）
「落語のオチを考える」
【協議】 鳴門教育大学附属特別支援学校 巡回相談員1名
1月 7日（金）【協議】 鳴門教育大学附属特別支援学校 巡回相談員1名
ライフスキルトレーニングA（午後）の3学期の授業について事前打ち合わせ
- 2月にも鳴門教育大学附属特別支援学校巡回相談員と授業見学と協議を実施予定。

4 成果

巡回相談員の適切なアドバイスにより、生徒の認知の歪みや考え方のくせに気がつくことができた。具体的には、「私の四面鏡」という課題の授業において、言葉の微妙な違いが理解できていないことから、自分の概念と周りの概念に差があるのではないかと、そして、それにより人から誤解されてしまうことが過去にあったのではないかとという可能性を指摘していただいた。また、授業を見ていただいた際に、人の評価が気になり注意散漫になっていることやワーキングメモリの少なさが見て取れるので、視覚化する必要性を改めて説明していただいた。望ましい行為を強化するための方法や特別支援学校で使っている手法など、違う視点からの助言や指導方法の工夫は授業に役立つことばかりであった。

5 今後の課題

「通級による指導」が今年度から始まった。研修を重ねてきたが、実際に始まると生徒の実態も事前に把握していた課題とは違うものが出てくるなど、授業計画を変更せざるえない状況になった。そこで、ケース会等を開くことにより、特別な支援を必要とする生徒への適切なアドバイスをいただき、よりよい授業へと改善していくことができた。しかし、巡回相談員との日程調整が難しく、来て欲しいタイミングとズレてしまうことがあった。今後は、実態把握をしっかりと行い、余裕を持って授業前に事前に打ち合わせをすることを視野にいれて進めていきたい。生徒の状態によっては、年間指導計画を適宜見直していくことも必要であるので、変化に柔軟に対応できるよう努めていく。そして、巡回相談員とともに授業の計画を見直す機会を設けるとともに、特別支援教育の視点でのアドバイスをいただき、生徒にとってよい指導ができるようにこれからもしっかりと連携していきたい。

② 富岡東高等学校定時制課程

○購入図書について

1 目的・ねらい

本校定時制には、昼間働いている生徒が多く、性的に様々な立場の人と出会う機会が

あり、また、飲酒・喫煙や、化粧やピアスなどの成人のおしゃれなどについて、職場を通して成人の日常生活に触れることが多い。未成年の生徒が、それらに関して正しい知識を知り、自分らしさを大切にしたい選択ができるよう、以下の図書購入を計画した。

2 内容

次の3冊の図書を購入した。

- 1) ゲイのボクから伝えたい「好き」の？（ハテナ）が分かる本—みんなが知らないLGBT（太郎次郎社エディタス）
- 2) 新・健康教育シリーズ エビデンスにもとづいた新・アルコールの害（少年写真新聞社）
- 3) 子どものうちに知っておきたい！おしゃれ障害（少年写真新聞社）

3 取組

養護助教諭が生徒の保健指導の際に活用するとともに、同助教諭が発行する「保健室だより」に、購入図書の内容を紹介した。また、購入図書を生徒や職員がよく目につくところに配置した。

4 成果

「おしゃれ障害」に関して、言葉で説明するだけでなく、購入図書の写真や図を見せることで、その深刻さを生徒に知らせることができた。

アルコールに関して、購入図書内のデータを見せることで、アルコールが未成年にとってどのような害があるのか、客観的かつ視覚的に示すことができた。

LGBTに関して、現在のところ、生徒からの相談はないが、購入図書が、今後、生徒自身がLGBTである場合の指針にもなることが予想される。

5 今後の課題

成人になるにあたり、健康を保ち、アルコールや化粧等に関する正しい知識を得て自分らしい生活を享受するために、精神的に発達し、自己有用感をもつという人間的にも同時に成長するよう支援しなければならない。

③ 池田高等学校定時制課程

○校内職員研修・学習環境づくり等について

1 目的・ねらい

研修会や情報交換・共有を通して、教職員の教育的スキルや資質の向上を図り、特別な支援を必要とする生徒に対する理解ときめ細やかな支援・指導の充実に繋げる。

2 内容

発達障害に関する基礎知識，心の不調に対する対処方法等，特別な支援を必要とする生徒への支援・指導について学ぶとともに，授業に参加しやすい環境作りを行う。

3 取り組み

特別な支援（発達障害）と認知機能トレーニングに関する校内職員研修会
教育相談職員研修会及びメンタルヘルス講演会
授業に参加しやすくするための掲示方法の工夫やツール活用による学習環境づくり
（ICT機器，ホワイトボード，大型タイマー等）

4 成果

発達障害についての校内職員研修を実施したことがきっかけで，7月から毎週水曜日の読書に時間に15分間の認知機能トレーニングを開始した。教育相談については，学校カウンセラーと連携して教育相談週間を設け，全員カウンセリングを実施した。心の不調に対する理解が深まり，生徒理解や教職員間での情報共有に繋がった。

授業環境作りに関しては大型タイマーを各教室に配備し，電子黒板やホワイトボードと組み合わせて活用した。大型タイマーの活用は個人作業やグループ活動の時間管理において有効であり，電子黒板やホワイトボードの活用と組み合わせることで生徒への指示が明確になり，より主体的な生徒の活動に繋がった。

教育相談や授業に関するアンケートの結果ではすべての質問で肯定的な評価が8割を超えており，良好な状況である。

※学校評価アンケート・授業評価アンケート 結果抜粋

④とてもそう思う ③そう思う ②あまり思わない ①全く思わない ④+③⇒肯定的評価

質 問	肯定的評価%→	H30	H29	H28	H27
【生徒】池田定時の先生はあなたの悩みや相談について，よく相談にのってくれますか。	89	100	94	83	
【生徒】あなたは池田高校に入学してよかったと思いますか。	100	95	94	83	
【保護者】教員は，三者面談で保護者の意見や相談を聴いてくれた。	100	100	100	87	
【保護者】教員は，子どもをよく理解し，子どもについての相談に適切に応じている。	100	100	100	86	
【生徒】授業に満足していますか	84	74	89	71	
【生徒】授業の進み方や内容はちょうど良い ※授業・学習評価アンケート(2学期)	100	96	99	97	

5 今後の課題

本年度は不登校経験者が全体の8割を超えており，精神的に不安定な生徒も多い。今後もその傾向は続くと思われる。中学校や関係機関とも連携し，入学前から生徒の実態把握に努めるとともに，学習面・行動面・対人関係等に悩みを持つ生徒に対して，個々に応じた支援ができるよう，職員の資質・能力の向上も含めて準備が必要である。

【3】 1年間の成果

○就労・ソーシャルスキル向上・学力向上等の指導方法の確立

1 就労指導

- ・様々な就職活動に関する取組を実施した結果、80%の生徒(昨年60%)が就労している。(徳島中央高校定時制課程夜間部)
- ・職場体験、職場見学、ビジネスマナー講座等を実施した結果、働くことに対する意欲の向上に繋がった。(池田高校)
- ・プロのテクニックを間近で見ることによって、その仕事をイメージすることができた。(名西高校)
- ・就職に資する図書を購入により、資格検定合格に繋がった。下級生の意欲向上も見られた。(徳島科学技術高校、富岡東高校)

2 ソーシャルスキル向上指導

- ・普段の会話に支障をきたしていたメンバーが人形劇の活動を通じて自信を得、日常生活においてスムーズに会話ができるようになった。消極的であったメンバーにポジティブな言動が増えてきた。またひとつのことを成し遂げる達成感を得た。(徳島中央高校定時制課程昼間部)
- ・絵本や童話にふれ、主人公や登場人物の生き方を追体験できた。表現力と積極性が向上した。(徳島中央高校定時制課程夜間部・昼間部)
- ・ヨガ体験により何事にも前向きに取り組むようになり、正しい姿勢や呼吸法を学んだ。(鳴門高校)
- ・「池定・地域まもり隊」が「ボランティアスピリットアワード」や「まなぼうさい活動賞」等を受賞し、自信や達成感に繋がった。(池田高校)

3 学力向上指導

- ・大学院生や支援相談員による学習支援で、学び直しをスムーズかつ効果的に行うことができた。(徳島中央高校定時制課程夜間部)
- ・学生ボランティアによる学習支援で、対人関係等のソーシャルスキルが少しずつ向上してきた。ベーシック科目の受講で生徒は分かる喜びを体験し、学習意欲の向上と自己肯定感に繋がった。出張スクーリングは通学の負担軽減に繋がった。(徳島中央高校通信制課程)
- ・ICT機器やシンキングツールを活用した授業により、生徒の授業に取り組む姿勢が向上した。(池田高校)
- ・各種資格検定に合格し、勤労意欲向上に役立った。(徳島科学技術高校、名西高校、富岡東高校)

○特別な支援を必要とする生徒への指導方法の確立

1 支援相談員の活用

これまでと同様に支援が就職に繋がった例，資格取得への意欲向上に繋がった例等が認められた。特別な支援を必要とする生徒に対し，HR担任，教科担任，管理職，スクールカウンセラーを交えたケース会議を開き，各授業での様子を確認するとともに，今後の支援について共通理解を図ることにより，一貫した指導を行うことができた。

2 特別な支援を必要とする生徒に対する指導

- ・巡回相談員の適切なアドバイスにより，生徒の認知の歪みや考え方のくせに気付くことができた。(徳島中央高校定時制課程昼間部)
- ・おしゃれ障害に関して，購入図書の写真やイラストを見せることで，その深刻さを生徒に周知できた。(富岡東高校)
- ・心の不調に対する理解が深まり，生徒理解や教職員間での情報共有に繋がった。(池田高校)

○支援・相談体制の充実

教頭による連絡会と委員による検討会議で役割を分担し，情報共有と事例検討，事業執行に係る指導評価を行った。連絡会は教頭会を活用することで5回開催し，緊密な情報交換を図ることができた。